

事項一四 「メキシコ」革命動乱一件

二四六 二月十日 在墨国堀口臨時代理公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

「メキシコ」市ニ革命騒動勃発シ大統領家族
日本公使館へ避難ニ付其措置振請訓ノ件

第三号

二月九日朝突然当市ニ革命騒動起リ曾テ Vera Cruz 叛乱
ニ失敗シ入獄中ノ Felix Dias ヲ載キ政府ヲ顛覆セント企
テ形勢容易ナラサリシカバ大統領夫人大統領ノ父母ハ家族
一同ト共ニ本官外出中ニ当公使館へ避難シ来リ居レリ右ハ
如何取計フヘキヤ何分ノ義御電訓ヲ請フ尤モ勝敗ハ目下尚
予見シ難シ帝国臣民中ニハ死傷ナシ其ノ保護ニハ十分注意
シ居レリ

二四七 二月十二日 加藤外務大臣ヨリ
在墨国堀口臨時代理公使宛(電報)

日本公使館ニ避難セル大統領家族ノ取扱振ニ
付回訓ノ件

第二号

他ニ比シテ当館ハ大ニ安全ナリト信シタルニ因ル右ニ付評
論下コロノ沙汰ニアラズシテ目下何レモ生命身体ノ安固ヲ
計ルニ余念ナシ

二四九 二月十四日 在墨国堀口臨時代理公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

「メキシコ」市ニ於テ叛軍官軍間激戦ノ件

第七号

二月十三日朝七時ヨリ午後四時迄激烈ナル砲撃殆ンド絶エ
間ナク今十四日朝六時ヨリ猛烈ナル砲撃始マリ砲撃聲々満
都ノ光景慘憺ヲ極ム館員及ビ居留民避難者皆無事ナリ

二五〇 二月十八日 在墨国堀口臨時代理公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

官軍総指揮官叛軍ト通ジ大統領及内閣員ヲ逮
捕ノ件

第九号

二月十八日午後二時官軍ノ総指揮官「ウエルタ」ハ有力ナ
ル部下ノ一將軍ト共ニ賊軍ニ通シ其ノ兵ヲ率テ政庁ニテ大
統領並ニ内閣員ヲ捕虜トシタルタメ戦争中止ノ姿トナレリ
市ノ秩序維持ノ任ハ臨時右「ウエルタ」之ニ当ル旨外交団

一四「メキシコ」革命動乱一件 二四九 二五〇 二五一 二五二

貴電第三号ニ関シ避難者ガ単ニ身辺ノ危害ヲ免カレンガ為
メノ避難ナルニ於テハ追テ何分ノ訓令ニ及ブ迄其儘ニ致シ
置カレ差支ナシ尤モ貴館避難中ヲ利用シテ何等政治的ノ行
動アルベカラザルハ勿論ノ義ナレハ右充分御注意ノ上本件
ニ対スル貴地評論ノ要旨電報アリタシ尚貴館ニ避難シタル
ハ地理上ノ便宜又ハ其他特別ノ理由アル次第ナルヤ参考ノ
為メ回電アレ

二四八 二月十三日 在墨国堀口臨時代理公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

日本公使館ニ「メキシコ」大統領家族避難ノ
事情等報告ノ件

第五号

貴電第二号ニ関シ避難者ハ従来政治ニ関係ナキ老人夫婦ト
夫人ノミノコトナレバ政治的行動ニ関係スル懸念ナド全ク
無之当館ニ避難シタルハ専ラ平素極メテ親密ナル交情ニ信
頼シ且墨国ノ上下官民一般ニ当館ニ深キ同情ヲ寄セ厚ク敬
愛ヲ表シ居ルヲ以テ官賊孰レヨリモ脅カサルル危険少ナク

ニ通知アリタリ

二五一 二月二十日 在墨国堀口臨時代理公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

大統領家族日本公使館ニ再度避難ノ件

第一〇号

曩キニ大統領官邸ニ帰還シタル大統領夫人大統領父母及ビ
其家族ハ大統領ノ捕虜トナリタルヲ聞キ二月十八日午後四
時再ビ当館ニ避難シ来レリ

二五二 二月二十日 在墨国堀口臨時代理公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

「メキシコ」大統領及副大統領辭職シ「ウエ
ルタ」將軍假大統領ニ任命ノ件

第一一号

大統領「マデロ」副大統領「ビノー」ハ二月十九日辭職シ
外務大臣「ラスキューレイン」一時假大統領トナルト共ニ
「ウエルタ」將軍外務大臣ニ任セラレ「ラスキューレイン」
氏ハ直チニ辭職シ「ウエルタ」將軍其ノ後ヲ襲フテ假大統
領ニ任セラレタリ

一四 「メキシコ」革命動乱一件 二五三 二五四 二五五

二五三 二月二十二日 在墨国堀口臨時代理公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

仮大統領「ウエルタ」内閣成立並「メキシコ」
国上下ノ良好ナル対日感情ニ関スル件

第一二号

仮大統領「ウエルタ」ノ新内閣組織セラレ曾テ仮大統領タ
リシ「デラバラ」氏外務大臣ニ任ゼラレタリ仮大統領ハ二
月二十一日正午政庁ニ於テ外交団ヲ接見セリ其ノ際大統領
ハ殊更ニ本官ニ対シ墨国人ハ光榮アリ且ツ勇敢ナル日本人
ニ特別ナル同情ヲ有スルモノナルコトヲ表明スト云ヘリ退
出ニ際シ政庁前ニ並ビタル群集ハ日本万歳ヲ叫ベリ昨二十
日午後七時当館ノ避難者一同ハ無事当市内ノ親戚方ヘ引移
レリ危急ノ際避難シタル旧大統領家族ニ与ヘタル当館ノ好
意ニ対シ旧外務大臣ハ新旧両外務大臣ノ名ヲ以テ本官ニ対
シ厚ク感謝ノ意ヲ陳ベタリ避難者ニ対スル当館ノ態度ハ墨
国人及外国人ニ頗ブル好キ「インプレッション」ヲ与ヘ日
本人ニ固有ナル高キ道德ノ発揚ナリトシテ評判大ニ好シ旧
大統領及副大統領ハ尚政庁内ニ監禁セラル他ノ旧内閣員ハ
尽ク帰宅ヲ許サレタリ特派大使「グスタボ、マデロ」ハ殺

在墨

臨時代理公使 堀口九万一(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

本月三日墨国外務大臣ノ初メテ外交団ヲ接見シタル際米國
大使ヨリ外交団ヲ代表シテ仮政府ニ対スル宣言書ヲ同大臣
ニ手交シタル次第ハ即日電信第一四号ヲ以テ及報告置候処
同宣言書ハ該電文中ニモ申進置候如ク仏文ヲ以テ認メタル
モノニシテ其全文ハ別紙ノ通りニ有之候間委細別紙ニ就キ
御了悉相成度此段申進候 敬具

(別紙)

仮政府ニ対スル外交団ノ宣言書

(Copie)

Le Corps Diplomatique est entré en fait en com-
munication avec le Gouvernement Mexicain, tout en
réservant à ses gouvernements respectifs le privilège de
reconnaître formellement le Gouvernement Provisoire
au moment que cela leur semblera à propos.

二五六 三月二十三日 在墨国堀口臨時代理公使ヨリ
牧野外務大臣宛

「メキシコ」革命後ノ政情ニ関シ報告ノ件

機密第四号 (六月十二日接受)

一四 「メキシコ」革命動乱一件 二五六

三六一

害セラレタリト云フ形勢稍平穩ナリ今回ノ戦乱中居留民ノ
被害至テ渺ナク流弾ニ負傷セシ労働者三名アリト伝聞ス死
者ハ皆無ナリ

註 右電報ハ二月二十一起草セラル

二五四 二月廿七日 在墨国堀口臨時代理公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

墨国前大統領及副大統領殺害セラレタル件

第一三号

前大統領「マデロ」前副大統領「ピノ」二月二十二日午後
十一時政庁監禁室ヨリ監獄ニ護送セラルル途上「マデロ」
黨員之レヲ奪ヒ取ラントシ其争闘中殺害セラレタル旨官報
ヲ以テ公表アリタリ北部ニ於ケル「マデロ」党ハ新政府ニ
対シ反旗ヲ上ケタリ

二五五 三月六日 在墨国堀口臨時代理公使ヨリ
牧野外務大臣宛

「メキシコ」仮政府ニ対スル在墨外交団ノ宣

言ニ関スル件

公第二〇号 (四月十六日接受)

大正二年三月六日

大正二年三月二十三日

在墨国

臨時代理公使 堀口九万一(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

一、「ウエルタ」「ヂヤス」兩派暗闘ノ徴候

二、正副大統領選挙期日及其候補者

三、米墨国境附近諸州ノ不穩

去ル二月革命後ノ「クーデター」ニヨリ仮大統領「ウエル
タ」將軍ノ政府成立シ爾來新政漸ク其緒ニ就クト共ニ同將
軍ト革命軍ノ首魁「フェリス、ヂヤス」氏トノ間ニハ二月
十八日夜ノ協定ニヨル和合提携ノ約益々堅ク「ヂヤス」氏
ハ已ニ將ニ來ルベキ大統領選挙ノ候補者トシテ各政治団体
ノ指令ヲ受ケ之ニ対抗スベキ有力ナル候補者未ダ現ハレズ
墨国政界ノ事漸ク定マラントスルノ觀ヲ呈スルニ至リ候サ
レドソハ単ニ表面ノミ此裡面ニハ猶不平、怨嗟ノ声各種ノ
暗流トナリテ横溢シ他日紛糾ノ種子タラント認メラルベキ
モノモ之レナキニ非ズ加フルニ北部諸州ニハ草賊依然トシ
テ出没シ鉄道電信等ノ交通機關屢々阻害セラレ殊ニ「ソノ
ラ」州ニ於ケル叛徒ハ比較的組織アル戦闘力ヲ有シ自ラ同

三六三

州ヲ以テ墨国中央政府ヨリ分離セシメント標榜シツ、アリ而シテ同州ノ位置ガ米国ニ近キダケソレダケ米国トノ國際關係ニ影響スル所少ナカラズ頗ル識者ノ注意ヲ惹起致シ居候就テハ左ニ其大要ヲ記述シ御参考ニ供シ候間御査閲相成度候

一、「ウエルタ」「ヂヤス」兩派暗闘ノ徴候

二月十八日夜米国大使館ニ於ケル「ウエルタ」「ヂヤス」兩氏ノ協定成立シタル當時已ニ兩巨頭將來ノ提携ヲ危ブムモノアリ曰ク「ウエルタ」將軍ハ一介ノ武弁ノミ單ニ時ノ勢ニ乗ジ仮大統領ノ榮冠ヲ戴ケルヲ以テ自然其下ニ用フベキモノハ其与党ニ限ラルベクカクシテ一度其威福ヲ逞フスルニ至ラバ在職僅カニ数月ニシテ其職ヲ棄ツルヲ好マザルニ至ルベシ將軍或ハ棄ツルノ意アルベシサレド其与党ヲ如何センヤ而シテ之ヲ棄ツルヲ好マズトセバ「ヂヤス」氏及其与党ハ遂ニ何物ヲモ贏チ得ズシテ終ルベシ此レ豈今次政変ノ原動力タリシ「ヂヤス」氏等ノ忍ブ所ナランヤサレバ「ヂヤス」「ウエルタ」兩巨頭ノ提携ハ必ラズヤ繼續シ難キ事情ニ逢着スベシト由來離合曲折ハ墨国政界ノ常套事タリ彼ノ「マデロ」氏革命以來ノ如キ政党政派及各政治家ノ集

突アリタル結果ニシテ「ウエルタ」將軍「ヂヤス」氏ヲ當首府ヨリ逐ヒタルナリト三月下旬ニ至リ「ウエルタ」將軍「ヂヤス」氏間ノ暗闘衝突ニ関スル風説盛シ喧伝セラレ甚ダシキハ「ヂヤス」氏ハ前記農園ニテ何物カニ殺害セラレ同氏一派ハ現軍務大臣「モンドラゴン」將軍ヲ擁シテ「ウエルタ」將軍ニ対シ反旗ヲ挙グベク墨都ハ再び往日ノ市街戦ヲ繰リ返ヘスベシトノ流言スラ行ハレタリ政府ハ殊ニ宣言書ヲ発シテ此等ノ巷説ハ何者カ為メニセントスルモノ、虚構ニ出ヅトシ毫モ信拠スルニ足ラザルヲ説明シ若シ再び如此キ無根ノ風説ヲ伝播スルモノアラバ社会公衆平和ノ敵トシテ嚴重ニ処罰スベシト威嚇シ再び革命戦乱ノ起ルベキヲ危懼セシ一般民心ヲ鎮静セントセリ、之ヲ要スルニ墨国政界ノ事猶混沌トシテ明カナラズト雖モ政府ガ堂々ト宣言書ヲ発シテ取消ヲナサントスル所何等カ「ヂヤス」氏「ウエルタ」將軍又ハ其与党間ニ一種ノ暗闘起リタルハ事実ナルモノ、如ク觀察セラル、唯此暗闘ガ將來猶繼續シテ墨国政界ニ一大波瀾ヲ惹起スベキヤ否ヤハ未ダ容易ニ断言シ難シ

二、正副大統領選挙期日及其候補者

合離散ハ極メテ頻繁ニ行ハレ殊ニ一昨年七月當時ノ仮大統領「デ、ラ、バラ」氏ノ仲介ノ下ニナサレタル「チャプルテペック」夏宮ニ於ケル「レーエス」將軍及「マデロ」氏ノ妥協ノ如キ旬日ニシテ破レタル先例アルヨリ見レバ今日ノ時局ニ於ケル「ヂヤス」「ウエルタ」兩氏ノ協定ヲ危ブムモ亦一理ナキニアラザルナリ而シテ「ウエルタ」將軍新政府ノ状態ヲ觀ルニ成立以來日猶淺キニ拘ハラズ已ニ内閣ノ内部ニ「ウエルタ」將軍ノ直參タル武断派ト「ウエルタ」政府ノ客將タル民主義派トノ二派アリテ互ヒニ兩立シテ下ラズ外務大臣「デ、ラ、バラ」氏ノ如キ此兩派ノ中ニ立チテ常ニ調停ニ苦心シツ、アリト云フ而シテ「ヂヤス」氏一派ハ「モンドラゴン」將軍軍務大臣タルノ故ヲ以テ軍務省内ノ官職ハ多少之ヲ贏チ得タルモ其他ノ各官省ハ全然別天地トシテ「ヂヤス」氏一派ノ獵官ノ目的物タル能ハズ新政府要職ノ多クハ「ウエルタ」將軍一派ノ專有ニ帰セリコレ「ヂヤス」氏一派ノ平ラカナラザル所タルヲ想像シ得ベクソレカアラヌカ三月中旬以後「ヂヤス」氏ハ急ニ當首府ヲ去リテ郊外ノ農園ニ起居シツ、アリ氏ノ転居ニ関シテモ説ヲナスモノアリ曰クコレ「ウエルタ」將軍ト感情上ノ衝

正副大統領選挙期日ハ猶確定セズ政府ノ意向ハ來ル七月二十七日ヲ以テ此選挙ヲ行ハントスルニアルモ目下墨国議會ハ猶閉會中ニ属シ常設委員會ハ之ヲ來ル四月一日ヲ以テ開會スル本會議ニ附スルコト、ナシタリ

正副大統領候補者トシテ已ニ各政治団体ノ推薦ヲ受ケツ、アルモノハ大統領トシテ「フエリス、ヂヤス」氏副大統領トシテ現外務大臣「レオン、デ、ラ、バラ」氏ノ二氏ナリトス、副大統領候補トシテハ現軍務大臣「モンドラゴン」將軍ヲ推シ現時ノ政局ニ立ツモノハ正副大統領共ニ軍人ナラザルベカラズトノ宣言ヲナセル一団体アリシモ「モンドラゴン」將軍固ク辞意ヲ表シテ動カザリシヲ以テ沙汰止ミトナレリ、大統領候補トシテハ前記「ヂヤス」氏以外何人モ未ダ名乗リヲ揚グルモノナシ

三、米墨国境附近諸州ノ不穩

墨国北部二州ノ騒乱ニ関シテハ三月二十一日附公第二二二号ヲ以テ已ニ大略具報セシガ如シ「コワウイラ」州ニ於ケル叛徒ノ主力已ニ潰敗シタルモ猶殘党各地ニ割拠シ此等叛軍ノ將タル「カランサ」ハ北米合衆國ノ領土内ニアリテ遠ク此等ト氣脈ヲ通ジ画策指揮シツ、アリ「ソノラ」州ノ叛徒

ハ依然トシテ猖獗ヲ極メ政府ハ同州ガ辺境隔絶ノ地ニアルガ為メ軍隊ノ輸送意ノ如クナラズ陸路ハ直接ノ交通機關欠乏セルヨリ大兵ヲ送ル能ハズ已ムヲ得ズ海路ヲ採ラザルベカラザルモ是レ亦運送船ノ不足ナルアリ大西洋岸「ヴェラクルズ」港ノ墨国砲艦數隻ニ令シテ急ニ「マゼラン」海峡ヲ迂回シテ太平洋岸「サリナクルズ」港方面ニ向ハシメ以テ陸兵ヲ輸送シテ「ソノラ」州地方ニ送ラシメントシツ、アリ此ノ北部諸州ノ騒乱ニ関シ其ノ真相ヲ捕捉センガ為メ各種ノ方面ニ就キ探聞シタル処ニ依レバ北米合衆国ニ隣接セル諸州「ソノラ」、「シナロア」、「チワワ」、「コワウイラ」、「タモーリパス」等諸州ノ間ニハ中央政府ヨリ分離シテ一共和国創設ノ聯合運動ナルモノカネテ「マデロ」氏政府時代ヨリ計畫セルモノアリ此計畫ニ対シテハ米國資本家其他ノ後援アリ各州ニ於ケル此運動ノ計畫者ハ互ニ氣脈ヲ通ジ好機會ノ到来ヲ待ち居リシモノナルガ今次中央政変ノ結果「コワウイラ」州前知事「カランサ」「ソノラ」州前知事「マイトレーナ」等ガ新政府ニ対シ反旗ヲ挙ゲタルハ此計畫者ニトリテハ乗ズベキ好機會ヲ与ヘタルモノニシテ此計畫ニ左袒スルモノハ皆此等ノ反軍ニ呼応シツ、アリ是レ

跋扈ノ弊ヲ米國ノ民主共和制ノ根本ニ醸スノ危険ヲ避クベカラザルハ今日米國ノ識者間ノ輿論ト見ルヲ得ベシ茲ニ於テカ前記一大宿望ノ遂行ヲ望ムモノハ機會アル毎ニ墨國ノ騒乱ヲ助長シ以テ墨國ノ行政財政ノ信用ヲ漸次下落セシメツ、其時機ヲ俟ツノ外ナシコレ國境諸州ノ騒乱殊ニ「ソノラ」州ニ於ケル分離運動ニハ米國人ノ煽動後援アリト称セラル、所以ニシテ前記ノ事情ヨリ察スレバ事實正ニ然リト斷ジ得ベキガ如シ近頃更ニ聞ク所ニヨレバ「ソノラ」州ニ於ケル反軍ニハ軍需品銃器ヲ盛シニ米國ヨリ密輸入セラレ其軍費ノ如キ大部分ハ米國資本家ノ供給ニ係リ反軍兵士中少ナクモ一千五百人ノ米人アリ最近同州ニ於ケル官軍兩軍ノ戦鬪ノ後革命軍ノ遺セル死屍中米人ノ死屍十五アリ皆平服ヲ着用セルモ「スプリング、フィールド」銃（米國陸軍ノ使用銃）ヲ所持シ居タリト云フ

右及具報候 敬具

二五七 六月六日 在墨國田辺臨時代理公使ヨリ 牧野外務大臣宛

「メキシコ」仮政府承認問題ニ関シ報告ノ件

機密第九号 (七月十八日接受)

「ソノラ」州ノ反軍ノ如キ明カニ分離運動ヲ標榜シツ、アル所以ニシテ「コワウイラ」州ノ反徒モ其勢力更ニ増大スルニ至ラバ「ソノラ」州ノ反徒ト同ジク分離ヲ標榜スルニ至ルベク遂ニハ其他ノ各州ニテモ之ニ応ズルモノアラシコト必セリト説クモノアリ思フニ此等國境諸州ノ地タル米國ニ近接セルダケソレダケ米國トノ利害關係頗ル密接ニシテ殊ニ米國資本家ノ此地方ニ投資又ハ事業ヲナセルモノニトリテハ一度米墨間ノ國境ニシテ廢セラレンカ是レガ為メニ生ズル此等資本家所有土地々価ノ騰貴ト生産物關稅賦課ヲ免ゼラル、トノ利益ハ決シテ鮮少ニアラズ（明治四十五年二月十五日附機密第二号米國ノ墨國干涉説ニ関スル報告参照）サレバ墨國ニ事変生ズル毎ニ米國ニアリテ此利益ヲ思フモノハ米國中央政府ヲシテ此策ニ出デシメンコトヲ運動シツ、アルモノ、如ク今日ニ於テハ米國人少ナクモ一部有力ナル米國人中ニ潛ミタル一大宿望ト觀ルヲ得ベク苟クモ米國ノ政治家タルモノハ共和黨タルト民主黨タルトヲ問ハズ此ノ一大宿望ヲ度外視スル能ハザルニ似タリ而モ從來ノ米墨間ノ關係ヨリ察セバ武力干涉ノ政策ハ米國ニトリテ巨万ノ財帛ト幾多ノ生靈ト多大ノ年月トヲ犠牲ニシ且ツ軍人

大正二年六月六日

在墨

臨時代理公使 田 辺 熊 三 郎（印）

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

墨國仮政府承認問題ニ関シ別紙ノ通り報告致候間御査閱相成度此段申進候 敬具

（別 紙）

墨國仮政府承認問題

一、外交団ノ宣言

一、今回ノ仮政府ト前年ノ仮政府トノ比較

一、列國ノ正式承認

一、米墨間ノ關係

一、外交団ノ宣言

本年二月ノ革命ノ結果「ウェルタ」將軍仮大統領トナリ同月二十一日始メテ外交団ヲ引見スルヤ米國大使ハ外交団ヲ代表シテ同仮大統領ノ就職ニ対シ祝詞ヲ述ベ同大統領之ニ答フル所アリタル次第ハ當時既ニ報告シタルガ如シ

右ノ如ク外交団一同方仮大統領ノ引見ニ応ジ而カモ同大統領ノ就職ニ対シ祝詞ヲ述ベタルノ事實ハ是レ即チ外交団ガ

正式ニ「ウエルタ」將軍ノ仮政府ヲ承認シタルモノナリトノ見解ヲ為スモノナキニ非ズ然ルニ越エテ三月三日外務大臣「デ、ラ、バラ」氏ガ始メテ外交団ヲ接見スルニ至テ米國大使ハ復タ外交団ヲ代表シテ左記ノ宣言ヲ認メタル覺書ヲ同大臣ニ手交セリ

外交団ハ各自ノ政府ニ追テ其適當ト思考スル時ニ仮政府ヲ正式ニ承認スルノ特權ヲ保留シテ事実上墨西哥政府ト通信ヲ開始ス

即チ外交団ハ仮政府ニ對シテ仮承認ヲ与ヘ其正式ノ承認ハ之ヲ各自本國政府ニ保留スルコト、セリ但シ右ノ宣言ハ米國大使ノ主唱ニ係リ外務大臣接見ノ當日而カモ接見ノ場所ニ於テ咄嗟ノ間ニ其草案ヲ同僚ニ示シ正式ニ其意見ヲ徵スルニ暇アラズシテ直ニ外務大臣ニ手交セラレタリ故ニ或ル國ノ代表者ノ如キ提出後ニ至リ始メテ其草案ヲ見ルヲ得タルモノアリ又當國外交団中ニ於テ重キヲ為セル西班牙國公使ノ如キスラ當日出席シ居リタルニ拘ラズ其ノ翌日小官ガ同公使ヲ訪問シタル時該宣言ニ不同意ナルコトヲ私ニ洩サレタルガ如キ次第ナリシ蓋シ米國政府ハ「ウエルタ」將軍ノ假政府ノ承認ヲ以テ之ヲ米墨間諸懸案ノ解決ニ利用セント

「データ」ヲ行フテ前正副大統領ヲ拘禁シタル「ウエルタ」將軍自ラ假大統領トナリ殊ニ其拘禁シタル前正副大統領ノ生命ニ關シテハ米國大統領ヨリ當國駐劄大使ヲ經テ同將軍ニ忠告スル所アリタルニ拘ラズ遂ニ不幸ナル最後ヲ見ルニ至リタル其ノ責任ハ同將軍ノ負ハザル可カラザル所ニシテ之カ為メ著シク米國ノ感情ヲ害シタルハ争フベカラザル事實ナレバ是ハ今回ノ假政府ニ對シ承認問題ノ起リタル一原因ト見ルヲ得ベキ歟

一、列國ノ正式承認

前記外交団ノ宣言アリタル以上墨國假政府ガ速ニ各締盟國政府ヨリ正式ノ承認ヲ得ンコトヲ希望セルハ勿論ニシテ殊ニ當時假政府ハ駐露公使「カルバハル、イ、ロサス」氏ヲ駐英公使ニ転任セシメタレバ英國政府ヲシテ同公使ヲ接受セシムルガ為メニモ差當リ同國政府ヨリ正式ノ承認ヲ得ルノ必要アリタリ是ニ於テ假大統領ハ其ノ就職ヲ通知スル親翰ヲ裁シテ先ツ英國皇帝ニ贈リ次テ他ノ締盟各國ニ送付シ之ニ對スル各國元首ノ答翰ヲ得テ以テ正式ニ其位置ヲ承認セラレンコトヲ希望シタリ

斯テ列強中右大統領ノ親翰ニ對シ第一ニ回答シタルハ英國

ノ意アリシコトハ後ニ至テ明ナリ

一、今回ノ假政府ト前年ノ假政府トノ比較

國際上ノ關係ニ於テハ「ウエルタ」將軍ノ假政府ト先年「マデロ」氏ノ革命後成立シタル「デ、ラ、バラ」氏ノ假政府ト甚ダ相似タルモノアリ然ルニ先年ノ假政府ニ對シテハ今回ノ如キ承認問題ノ起リタルヲ聞カザルハ如何ナル事情アリシヤヲ探聞スルニ「デ、ラ、バラ」氏ノ假政府成立當時ハ恰モ英國皇帝「ジョージ」五世陛下戴冠式參列ノ為メ當國ヨリ派遣セラレタル特派使節ノ渡航ノ途ニ在リテ若シ同假政府ヲ承認セザルニ於テハ同使節ヲシテ戴冠式ニ參列セシムルヲ得ザルコト、ナルベク是レ同皇帝ノ好マセラレザル所ナリシト又米國ハ當時「デイヤス」老將軍多年ノ独裁政治ヲ喜バズ陰ニ「マデロ」氏ノ民主主義ヲ歡迎シタル事情アリシトニ依リ承認問題ハ終ニ起ラザリシナリト云フ

右ハ先年ノ假政府ニ對シ承認問題ノ起ラザリシ事情ナルガ尚本官ノ觀ル所ニ拠レバ先年ノ革命ニ於テハ革命ノ首領タル「マデロ」氏自ラ假大統領トナラズ當時ノ外務大臣「デ、ラ、バラ」氏ヲ推シテ之ニ當ラシメタルニ反シ今回ハ「ク

ニシテ同國皇帝ノ御答翰ハ五月三日當國駐劄英國公使ヨリ「ウエルタ」將軍ニ捧呈セラレタリ但シ是ヨリ先キ「サルヴァドル」國假大統領ノ答翰ハ四月八日ヲ以テ捧呈セラレタルモ國際關係上重キヲ為スニ足ラザル中米ノ少弱國ノコト、テ別ニ世人ノ注意ヲ惹クニ至ラザリシ

右英國ニ次テ仏國ハ五月十三日「グアテマラ」國ハ五月二十日及壞洪國ハ五月二十八日ヲ以テ何レモ各々其元首ノ答翰ヲ假大統領ニ捧呈シ次テ正式ニ同假政府ヲ承認シ尚ホ他ノ歐洲諸國及ビ南米中米ノ諸國ヨリモ其答翰ノ既ニ發送セラレテ中途ニ在ルモノアリ然ラザルモ遠カラズ發送セラレベキ望アルニ際シ独リ北米合衆國ハ假政府ガ最モ其承認ヲ得ンコトヲ熱望セルニ拘ラズ更ニ其大統領ノ答翰ヲ送り來ルベキ模様ナキハ墨國上下一般ノ甚ダ憤慨シテ措カザル所ナリ

一、米墨間ノ關係

墨國假政府ノ承認問題ヲ起シタルハ米國大使ノ主唱ニ係ルコトハ已ニ前段ニ述ベタルガ如シ蓋シ米國ハ墨國ト接壤シテ當國ニ於ケル利害關係ノ甚ダ重大ナルモノアリ且ツ千九百十年ノ「マデロ」氏革命騒亂以來米國人ノ被リタル莫大

ナル損害ノ賠償問題竝ニ從來兩國間ニ懸案トナレル諸問題ヲ此際承認問題ト同時ニ解決セントノ希望アリ是レ米國政府ガ容易ニ墨國仮政府ニ対シ正式ノ承認ヲ与ヘザル所以ナリ

聞ク所ニ拠レバ目下米墨國ニ懸案トナレル案件中重ナルモノハ「チャミサル」問題「コロラド」河水分割問題及革命騒乱損害賠償問題ニシテ米國政府ハ墨國仮政府ヲ承認スルニ先チ此等ノ諸問題ニ関シ先頃米國駐米大使ヲシテ種々交渉セシメツ、アルモ仮政府ハ其承認ヲ他ノ諸懸案ノ解決ニ利用セラル、ヲ欲セズシテ終始強硬ノ態度ヲ持セルガ如シ今「ウェルタ」將軍ガ其去ル五月七日ノ米國大使トノ会見ニ関シ翌日ノ新聞紙上ヲ以テ公表シタル所ヲ見ルニ以テ其間ノ消息ヲ知ルニ足ルモノアリ即チ左ノ如シ

共和國大統領ハ昨夜米國大使ト会見シ合衆國トノ關係上墨西哥共和國ノ地位ノ異例 (Anomalous situation) ナルコトニ関シ談論スル所アリタリ共和國大統領ハ「ウキルソン」大使ガ話頭ヲ公務上ニ転シタル時同大使ニ下ノ如ク説示セリ墨西哥國政府ハ合衆國トノ間ニ現存スル諸懸案ヲ協定スル充分ナル意志ヲ有セリ然レトモ目下墨西

謀ノ挙ナリトノ事ヲ指摘スルモノアリテ遂ニ実行セラル、ニ至ラザリシ

之ヲ要スルニ墨國仮政府ハ英仏等歐洲列強ヨリ漸次承認ヲ得ルニ力ヲ得テ益々米國ニ対スル態度ヲ強硬ニシ且ツ正副大統領ノ臨時選挙モ愈々本年十月二十六日ヲ以テ挙行セラル、事ニ決定シタルヲ以テ米國政府モ列國ノ例ニ倣ヒ墨國仮政府ニ対シ正式承認ヲ与フルノ外ナカルベキガ如クナルモ同政府ガ果シテ此ノ措置ヲ執ルベキカ若クハ正副大統領ノ選挙セラル、迄終ニ仮政府ヲ承認スルコトナカルベキカハ之ヲ他日ニ徴シテ知ルノ外ナシ

大正二年五月三十一日

二五八 六月十日

在墨國田辺臨時代理公使ヨリ
牧野外務大臣宛

「メキシコ」政府ノ日本小銃購買ニ対スル在

墨「ドイツ」商人ノ逆宣伝ニ関シ報告ノ件

公第五九号

(七月二十八日接受)

大正二年六月十日

在 墨

臨時代理公使 田 辺 熊 三 郎 (印)

一四 「メキシコ」革命動乱一件 二五八

哥共和國政府ハ特ニ至急ヲ要スルモノ若クハ普通常務ノ外何等公務ヲ処理スルコトヲ差控フルノ必要アルコトヲ大使ニ於テ承知セラレタシ何トナレバ合衆國政府ガ墨西哥國政府ヲ承認セザル間ハ墨西哥政府ハ合衆國政府ノ前ニハ何等ノ地位ヲモ有セザルガ故ニ從テ其協約ハ総テ無効ナルベケレバナリ

尚ホ新聞紙ノ伝フル所ニ拠レバ大統領ハ「ウキルソン」大使ニ対シ墨國政府ガ華盛頓府ニ同一階級ノ代表者ヲ駐割セシムル能ハザル間ハ(墨國仮政府ハ曩ニ「ラバサ」氏ヲ駐米大使ニ任命シタルモ赴任セシムル能ハズシテ目下在華府墨國大使館ハ尚ホ書記官ニ於テ事務ヲ執リ居レリ)同政府ハ同大使ヲ合衆國ノ正當ナル代表者ト認ムルコト能ハズト告ケタリトノ風説アレトモ是ハ蓋シ大統領ノ強硬ナル態度ヨリ其ノ心事ヲ揣摩シタル臆説ニ過ギサルベシ

右大統領ノ米國ニ対スル強硬ナル態度ハ墨國上下一般ノ賞讃スル所ニシテ其後米國ハ尚ホ依然トシテ墨國政府ヲ承認スル模様ナキヨリ當首府ノ或ル一部ノ人士ハ之カ報復手段トシテ米國輸入品ニ対シ「ボイコット」ヲ行フベシトノ説ヲ唱ヘシカスノ如キ事ハ結局反テ墨國ノ不利トナルヘキ無

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

過般來墨國政府ニ於テ曩ニ三井物産会社ノ提供セル日本製軍器及軍用品ノ見本ヲ調査中ノ処今般日本製ノ小銃ハ独逸製ノ小銃ニ比シ

第一、重量二百「グラム」輕キ事

第二、水分、塵埃ノ侵入ヲ防止スル仕掛アル事

第三、銃身長キ事

第四、二個ノ瓦斯排泄孔ヲ有スル事

第五、発火ノ際手支ノ仕掛アル事

等ノ便益アルノミナラズ独逸銃ハ墨國「ヴェラクルス」港渡ニテ三十六弗ナルニ対シ日本銃ハ同「マンサニヨ」港渡ニテ三十二弗ノ廉價ナルヨリ愈々日本ニ小銃五万挺ヲ注文スル事ニ決シ去ル三日墨國陸軍大臣ト三井物産会社代理人トノ間ニ売買契約相調候

然ルニ右小銃売買ノ義墨國軍務省ノ漏ス所トナリ新聞紙上ニ公表セラレ候処是迄墨國ハ武器其他軍需品ヲ供給シ居レル独逸商人ハ之ヲ見テ甚ダシク狼狽シタルモノ、如ク直ニ当地二三ノ重要新聞紙ヲシテ墨國政府ガ日本製ノ小銃ヲ購買スルハ墨國軍隊ニ取リテ最モ不幸、不利ナリトノ事ヲ説カシメ輿論ヲ沸騰シテ以テ契約ノ調印ヲ妨碍セント企テ

候、其ノ説ニ曰ク日本ハ自ラ武器製造ニ用ユル機械ヲ製造スルコト能ハザルヲ以テ之ヲ独逸ヨリ輸入セザルベカラズ、日本ハ鋼鉄ヲ産出セザルヲ以テ勢ヒ之ヲ外国ノ供給ニ仰ガザルベカラズ、日本ノ労働銀ハ十数年前迄ハ甚ダ低廉ナリシモ過ル日露戦役以來甚ダシク騰貴シ今日ニ於テハ歐洲諸國ニ比シ大差ナキニ至レリ、此等ノ事情ハ何レモ日本製ノ小銃ガ歐洲製ニ比シ決シテ低廉ナルヲ得ザル所以ヲ表証スルモノナラズンバアラズ然ルニ陸軍省ハ日本銃ヲ以テ歐洲銃（独逸銃トハ言ハズ）ニ比シ経済的ナリト判断セリ是レ甚ダ疑ハシキ事ニシテ吾人ハ深ク墨國ノ為メニ歎ゼザルヲ得ズ蓋シ日本商人ガ墨國政府ニ売リ込マントスル小銃ハ必ズ日本ガ曾テ日露ノ役ニ使用シタル廢物ニ加工シタルモノタラザルベカラザレバナリ然レドモ陸軍省ハ之ヲ否定シテ日本軍隊ノ使用スル小銃ノ口径ハ六「ミリメートル」ニシテ今回墨國政府ガ日本ニ注文セントセルモノハ七「ミリメートル」ナレバ決シテ古物ヲ買込ムガ如キ虞ナシト言ヘルモ日本人ノ狡猾ナル必ズ古物ノ口径ヲ拡大シ新製品ノ如クシテ売込ムベシ是レ銃ノ破裂ヲ容易ナラシムルモノニシテ甚ダ危険ナルモノトス吾人ハ墨國ノ為メニ其不幸ヲ悲マ

ザルヲ得ザルナリ云々ト、其所説甚ダ淺薄ニシテ且ツ往々滑稽ニ近キモノスラコレアリシカバ新聞紙中独逸商人ノ卑劣ヲ憤慨シテ頻リニ日本銃ノ優等ナルヲ弁護スルモノアリテ数日間両者ノ間論難弁駁シ居リシガ反對新聞ノ攻撃ハ遂ニ墨國陸軍省殊ニ当局軍人ノ名譽威嚴ヲ損シタルモノノ如ク軍人中或ハ新聞紙ニ投書シ或ハ記者ニ会見シテ盛ニ日本銃ノ優等ナルヲ説キ以テ反對新聞ノ誤解ヲ指摘スル者アル等一時世上ノ一大問題トナリシカバ陸軍大臣ハ遂ニ反對新聞ノ記者ヲ招キ実物ニ就キ遺憾ナク日本銃ノ利便ヲ説キ又有志者ニ對シテハ目前ニ於テ之レガ試験ヲナシテ説明ノ勞ヲ執リタレバ反對者モ最早何等議論ヲ挿ムノ余地ナキニ至リ、別紙新聞切抜キノ如ク反對新聞スラ自ラ日本銃ト独逸銃トノ写真ヲ掲載シ日本製ノ有利ナルヲ承認スルニ至リ候斯クテ一時墨國ノ上下ヲ聳動セシメタル本件モ茲ニ終リヲ告グルニ至リタル次第ニ候

今般墨國政府ガ日本ニ小銃ノ製造ヲ注文スルニ至リタル動機ハ實際日本銃ハ軍器トシテノ価値ニ於テモ又價格ノ点ニ於テモ歐洲銃ニ比シ有利ナルノ事實ニアルハ勿論ナルモ其ノ斯ク大胆ニモ一時ニ多額ノ注文ヲナスコトニ決セシメタ

ルハ曩ニ墨國政府ガ同ジク三井物産会社ヲ經テ日本ニ注文シタル軍帽ガ独逸製ニ比シ遙ニ上等ナルニ價格ハ却テ其ノ半額ナリシノ一事ト、墨國ガ日本ニ注文スル時ハ歐洲ノ諸國ニ注文スルガ如ク例ヘバ独逸ニ注文スル時ハ其ノ競争者タル仏國、埃國、伊國又ハ西國ニモ其ノ感情ヲ害セザル為ニ応分ノ注文ヲナサザルベカラザル關係ノ生ズル虞ナキ事等ガ与リテ大ニ力アリシモノ、如クニ存ゼラレ候、又墨國陸軍省ガ日独兩國ノ軍器ヲ對照研究シ忌憚ナク日本軍器ノ優等ナルコトヲ公表シタルコトハ是迄南米、中米ノ諸國ニ或ハ軍器ヲ売リ込ミ或ハ教官ヲ傭ハシメテ頻リニ独逸本国ノ勢力ヲ扶植セントスルコトニ努ムル独逸人ニ取リテハ明ニ一大打撃タルヲ免レズ、随テ今回独逸人ガ痛ク憤慨シタルハ蓋シ無理ナラザル次第ナルガコレト同時ニ墨國陸軍省ノ判決ガ今後中米、南米ノ諸國ニ對シテ日本武器ノ進歩ヲ紹介シタル無形上ノ利益ハ又甚ダ大ナルモノ有之哉ニ存セラレ候

尚ホ本件ハ上記ノ如ク痛ク独逸人ヲ憤慨セシメタルモ其競争者タル仏蘭西人又ハ西班牙人ハ之ニ依リ左程感情ヲ害シタル模様無之様見受ケラレ候蓋シ当初独逸人ハ此等諸國ノ

商人ヲモ煽動シテ歐洲商人連合ノ上日本武器ノ攻撃ヲナサント試ミタルガ如クナレドモ何人モ之ニ応ズルモノナカリシ儀ニ有之候

右御參考迄及報告候 敬具

註 日独小銃写真所載ノ新聞切抜省略

二五九 七月二十二日 在墨國安達公使ヨリ
牧野外務大臣宛（電報）

安達公使着任ノ際ノ歡迎振及排米風潮報告ノ件

第三〇号

本官七月二十二日著任ス去ル七月十九日墨西哥國「マンサニヨ」著港ノ後往電第二六号後段ノ趣ヲ知り七月二十日同港上陸「マンサニヨ」「コリマ」「ガタラハラ」等諸市ハ固ヨリ該列車ノ停車スル各地点ノ多クハ夜中ニモ附近人民ノ歡迎アリ本日首府ニ到著ノ際ニハ停車場ニ無數ノ群衆アリテ日本万歳ヲ唱ヘタルノミナラズ政府ヨリモ外務省ヨリ一等大使接迎官ハ屬僚ト共ニ大統領馬車ヲ以テ本官ヲ迎ヘ當館ニ送り來レリ以上各都市ノ歡迎ハ皆民衆ノ自動的發起ニ依ルコトヲ標榜シタルモ首府ヲ除クノ外何レモ該運動ノ指

揮ヲ為スモノハ州知事郡長市参事会ナゾ地方官憲ニシテ殊ニ「ガダラハラ」ノ如キハ同市参事会特別決議ヲ以テ本官ヲ名誉市賓トシテ待遇シ同会長主催ノ一般午餐会アリ又同市ヲ首府トセル「ハリスコ」州知事ハ政庁ニ於テ本官ノ為メニ盛大ナル「レセプション」ヲ催シ属僚並ニ同官管内各代表者ヲ紹介シ更ニ本日首府ノ歡迎モ政府ヨリノ待遇ハ前記ノ通り全然特派使節ト同様ノ有様ナリ而シテ此等歡迎運動者ノ態度ハ比較的指揮者ノ注意行届キ幸ヒ不穩当ナル言ヲ聞カサルモ只前記「コリマ」市ニテハ往々日本万歳ト共ニ米国人死セヨトノ声起リ「コリマ」州知事モ小ナル日本国カ大ナル露国ニ勝チ得タル如ク我墨西哥国モ日本国ニ倣ヒ之レヲ友トシテ米国ニ打勝ツベシト演説シ狂喜セル民衆ノ喝采ヲ博シタリ蓋シ「マンサニヨ」首府間ノ鉄道沿線ハ墨西哥国ニ於テ最モ外国殊ニ米国ノ勢力侵入スルコト尠ナク從テ予テヨリ反米感情モ高ク往電第二六号前段同事件ニ依ル刺撃モ甚シク感セラレタルナラント察セラル本官ハ只各地ニ於テ民衆ノ反米感情ニ迎合セサルコトニ努メ日墨両国間ノ親善ハ専ラ商工業ノ關係ヲ發達セシムルニ存スト繰返シ述ヘ置キタリ又現仮大統領ノ特別列車派遣ニ関シテハ往

電第二六号後段ノ觀察正當ナルモノノ如シ但シ此ノ一事ハ尠クトモ上陸沿道民衆及地方官憲ノ本官ニ對スル歡迎運動ヲシテ盛ナラシメタルハ争ヒ難キ事實タルト共ニ本日著京ノ際政府ノ本官ニ對スル歡迎ノ如キ政府ノ歡迎運動タルノ觀ヲ呈シタルハ特ニ世人ノ注意ヲ喚起シタルカ如シ米国新聞通信員電報等ニヨリ誤謬事實ヲ伝ヘラルルノ虞アルニ付冗長ナガラ電報ス

註 往電第二六号ハ墨国ニ於ケル排米風潮及親日気分ヲ報告セリ省略ス

二六〇 八月七日 在墨国安達公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

米国大統領特使「リンド」ニ「メキシコ」派遣非
公式通知ニ對シ「メキシコ」政府態度表明ノ
件

第三五号

「ジョン、リンド」氏ガ米国大統領ノ特別任務ヲ帶ヒテ墨国ニ派遣セラルルコト在墨米国代理大使ヨリ八月五日公然トナク墨国外務大臣代理ニ通知シタルニ對シ同大臣代理ハ若シ「リンド」氏カ墨国政府ニ對スル信任状及米国政府ノ

墨国政府ニ對スル承認狀ヲ携帯スルニアラザレハ同氏ノ當共和国ニ滞在スルコトハ墨国政府ノ喜ハサル所ナルコトヲ大統領ノ命ニ依リ通牒スル旨ノ公文ヲ八月六日夜米国代理大使ニ送レリ

二六一 八月七日 在墨国安達公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

米国特使「リンド」ニ「メキシコ」派遣問題紛糾
ノ虞アルヤノ件

第三六号

往電第三五号ニ関シ当地外交官ハ孰レモ墨国政府ノ措置ヲ是認シ此上ハ米国政府ハ「リンド」ヲ中途ヨリ召還スルノ外ナカルベキモ之ガ報復手段トシテ或ハ兵力干涉若ハ其他ノ方法ヲ以テ墨国政府ヲ苦シムルノ策ニ出ヅルモ計リ難ク事態甚ダ重大ナリト評シ居レリ尚往電第三四号末段ニ関シ米国政府ハ「ウキルソン」ノ建議ヲ容レズシテ其辭職ヲ聞届ケ遂ニ「リンド」ノ派遣トナリタル次第ニシテ「ウキルソン」ノ行動ニ望ヲ属シタル当国人士尠カラス失望セリ

二六二 八月七日 在米国珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

一四 「メキシコ」革命動乱一件 二六一 二六二

米国特使「リンド」ノ「メキシコ」ニ對スル
提案ニ関シ在墨日本公使ノ支援要請ノ件

第二四一号

八月七日國務長官定例接見日ニ當リ往訪シタルニ同官ハ近來墨西哥国問題ニ付キ多忙極マル旨ヲ述ヘ暫ク之ニ関スル雜談ヲ交換シタル後偶然思ヒ付キタルカ如キ口調ニテ同問題ニ付キ本使ト熟議シタキコトアリト云ヒ次テ説明シタル所ニヨレハ今回 John Lind (前「ミネソタ」州知事) ハ大統領ノ名代 (Personal representative of the President) トシテ同大統領ノ墨西哥国仮大統領ニ對スル提案ヲ帶有シ墨西哥国ニ向ヒ出發シタル処其ノ使命ハ目下特ニ機密ヲ要スル事情アリ差当リ之レガ内容ヲ明スコトヲ得サルモ大体墨西哥国ニ於ケル時局ノ平定ヲ目的トスルモノニシテ其列国ニ満足ヲ与フベキハ同官ノ確信スル所ナリ然シ墨西哥国現政府ニ於テ Lind ノ申入ニ對シ十分考究ヲ尽サズ猥リニ之ヲ拒絕スルガ如キコトアラハ時局平定ノ為メ遺憾ナレバ若シ墨西哥国仮大統領ニ於テ米国ノ提議ヲ拒絕セントスル場合ニハ先ツ在墨西哥公使ニ計リ其ノ忠言ヲ求ムル様予メ同公使ト Huerta トノ間ニ内々ノ打合ヲ遂クヘキ旨帝國政

府ヨリ同公使ニ訓令セラルル途ナキヤ尤モ Huerta ヨリ日本公使ノ忠言ヲ求ムルニ至ラバ右米國ノ提議ハ同公使ニ内示スヘキコト勿論ナリト述ヘタリ本使ハ之ニ対シ元來帝國政府ハ米墨關係ニ付テハ努メテ之ニ関与スルカ如キ嫌疑ノ原因ヲ避ケ何レニ対シテモ公明正大ノ態度ヲ執リ来リタル処時局平定ハ帝國政府ノ誠意希望スル所ト信スルヲ以テ若シ此ノ目的ノ為メ米墨双方ノ信頼ヲ受ケ何等兩國間ニ斡旋スヘキ事項アルニ於テハ帝國政府ハ欣然其ノ勞ヲ辞セサルヘシト思ハルモ本件ハ事極メテ機微ニ属シ墨西哥國ノ嫌疑ヲ招クノ虞アルモノトシテ帝國政府ハ斯ノ如キ措置ヲ避クル方針ナルヤモ知ルベカラス若シ又之レヲ帝國政府ノ措置トセス只在墨公使ニ於テ Huerta 又ハ其ノ他同國要路者トノ私交ニ訴ヘ個人的問題トシテ右打合セテ遂ケンコトヲ試ムヘキモノトセハ同公使ハ未タ新任早々ニシテ右要路者ト充分胸襟ヲ開キ意見ヲ交換スルノ機會ヲ得サルヤモ計リ難シ屯ニ角國務長官ノ懇談ニ対シテハ本使ハ帝國政府ニ請訓ノ上何分ノ義確答ヲナスヘシト挨拶シ置キタリ新聞紙ノ報スル所ニ依レハ Lind ハ本七日「ヴェラクルーズ」到着ノ予定ナル趣ニ付キ本件ハ成ルヘク速ニ考量ヲ加ヘラレ何

米國務長官ヨリ珍田大使宛公文

No. 246 (Betsuden)

This Government will soon communicate with Mexican authorities with a view to aiding in a friendly and disinterested way in the restoration of peace. Contents of this communication would be made known to you when it is ready. In the meantime it is respectfully suggested that your Government consider propriety of asking its representative in Mexico to confer with Huerta, and advise him of its view with regard to propriety and necessity of giving very serious consideration to any suggestion this Government may make, and of situation which might arise should these good offices be rejected.

Chinda.

二六四 八月八日 在墨國安達公使ヨリ
牧野外務大臣宛

「メキシコ」官民ノ日本公使歡迎振並日本行

答札大使任命ノ事情ニ関シ報告ノ件

附屬書 右報告書

公第七七号 (九月二十五日接受)

分ノ義電報ヲ乞フ
右在墨公使ヘ電報濟

二六三 八月八日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

米國ノ對墨提案ニ付在墨日本公使ノ支援ヲ要
請スル公文ヲ國務長官ヨリ受領ノ件

別電 同日珍田大使發牧野外務大臣宛來電第二四六号
右公文

第二四五号

往電第二四一号ニ関シ八月七日夜ノ國務長官口調ヨリ推測スルニ歐洲諸國政府ニ対シテモ同一ノ申入ヲナス意嚮アルモノノ如ク目下當國ニ於ケル歐洲諸國代表者ハ孰レモ避暑不在中ナルカ八月八日國務長官ヨリ別電第二四六号ノ如キ公文ニ接到シタルヲ以テ見レハ右諸國代表者ニ対シテハ同文ノ書面ヲ送リタルニアラスヤト思ハル御參考迄右在墨公使ヘ電報濟ミ
(別電)

八月八日在米國珍田大使發牧野外務大臣宛電
報第二四六号

大正二年八月八日

在墨

特命全權公使法学博士 安達峯一郎(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

墨國官民ノ日本公使歡迎竝ニ日本行答札大使任命ノ事情ニ関シ別紙ノ通り呈報致候間御査閱相成度此段申進候 敬具
追テ七月二十二日附往電第三〇号ヲ以テ大要及報告置候
本使來任ノ際當國官民ヨリ受ケタル歡迎ノ詳報ハ過日來起草中ノ処目下時局ニ関シ多忙ニ付追テ脱稿次第可差進候間右様御了知相成度此段申添候

(附屬書)

「メキシコ」官民ノ日本公使歡迎並日本行答

札大使任命ノ事情

本官着任ノ際墨國官民ノ本官ニ与ヘタル歡迎ガ主トシテ墨國ノ對米關係ニ基キタル次第ハ當時直ニ大要電票ニ及ビ置キシガ尚ホ其事情ヲ左ニ詳報スベシ

米國政府ガ未ダ現墨國仮政府ニ承認ヲ与ヘザルコト及米國人ガ往々墨國北部ノ反徒ヲ援助シ居ルコトハ仮大統領ヲ始メ現政府ニ忠実ナル墨國上下一般ノ予テヨリ非常ニ憤慨セ

ル所ナルニ本月ニ入テ更ニ墨国人ノ対米悪感ヲ増長スベキ左記ノ事件続發セリ

本月四日米國ノ独立記念祭ニ當リ米國「アリゾナ」州「タクソン」市墨國領事館ニ於テ祝意ヲ表スル為メ墨國々旗ヲ掲揚シタルニ或ル米國人ノ為メ引卸サレテ足下ニ蹂躪セラレタルコト又越エテ本月十一日「グワイマス」港ニ於テ官坂兩軍戰鬪中米國軍艦ハ探海燈ヲ以テ官軍ノ陣地ヲ照シ以テ叛軍ニ利シタルコト及其他米國人ノ墨國叛徒ニ援助ヲ与ヘタル一二ノ情報當地ニ達セシカバ大ニ當地ノ人心ヲ激昂セシメタリ

現墨國仮大統領ハ米國政府ヨリ承認ヲ与ヘラレザルヲ憤慨スルト同時ニ已ニ承認ヲ与ヘタル友國ニ對シテハ常ニ對照的ニ好意ヲ表スルコトヲ努メ居レリ現ニ列國ニ率先シテ第一ニ承認ヲ与ヘタル英國公使ニ對スル大統領ノ待遇ガ特ニ慇懃ナルガ如キ又最近仏國々祭日ニ當リ特ニ祝意ヲ表スルガ為メ曾テ先例ナキ官庁一般ノ休暇ヲ命シ而シテ僅々十日以前ノ米國々祭日ニ於テ此事ナカリシガ如キ顯著ナル実例アリ左レバ前記ノ如キ事件ノ続發ニヨリテ對米悪感ヲ挑發セラレタル大統領ハ折柄其ノ予テヨリ同情ヲ有スル日本ヨ

ヲ遂ニ任命派遣スルニ至リタルハ已ニ前段ニ述ベタルガ如ク特別列車ノ派遣ト同時ニシテ即チ新任日本公使ニ好意ヲ表スルト共ニ日本ニ對シ久シク怠り居リタル國際信義ヲ果ス次第ナルモ其実墨國內政上ニ深キ關係アルコトハ是亦當時大要電報シ置キタルガ尚ホ其ノ詳細ノ事情ハ左ノ如シ去ル二月ノ慘劇十日ノ後「ウエルタ」「ディヤス」兩將軍妥協ノ結果成立シタル墨國仮政府ハ言フ迄モ無ク即チ兩將軍党派ノ聯立ニシテ其後閣員ノ間往々意見ノ衝突アリテ施政上意ノ如クナラザルモノアリシヨリ大統領ハ過般來漸次「ディヤス」將軍ノ黨員ヲ閣外ニ排斥シ尋テ巧ニ之ヲ國外ニ敬遠シツ、アリ現ニ「ディヤス」將軍ト生死ヲ共ニシタル「モンドラゴン」將軍ガ曩ニ軍務大臣ヲ辭シ尋テ國際軍事會議墨國委員トシテ白耳義國ニ派遣セラレタルガ如キ又近クハ外務大臣ヲ辭シタル「デ、ラ、バラ」氏ガ駐仏公使ニ任命セラレタルガ如キ即チ其例証ニシテ「ディヤス」將軍ニ對シテモ予テヨリ之ヲ國外ニ敬遠セント計畫セル折柄前記ノ如ク日本公使歡迎ト同時ニ答礼大使派遣ノ必要ヲ感シ是ニ於テ同將軍ニ說クニ日本行答礼大使タル任務ノ重クシテ同將軍ノ如キ聲望ノ隆ナル者ニアラザレバ之ニ膺ルニ

リ曩ニ同大統領ガ其ノ就職ノ通知ヲ為シタル親翰ニ對スル天皇陛下ノ御答翰ヲ捧持シテ新任公使ノ近々「マンサニヨ」港ニ到着スベシトノ報ニ接シテ甚ダ喜ビ大ニ好意ヲ表セント欲シ是ニ於テ先ツ本官接迎ノ為メ特別列車ノ發送ヲ命ジ同時ニ幾度カ内政上ノ事故ノ為メ日本ニ對シ果スコトヲ得ザリシ答礼大使ヲモ遽ニ任命派遣スルコト、ナリタルカ如シ但シ對米關係ト云フモ右ニ説明シタルカ如ク日本ニ向ヒ對照的ニ好意ヲ表シタルニ止リテ其以上日米兩國間ニ係争問題アルノ機ニ乘ジテ何等謀ル所アラントスルガ如キ深キ政事の意味アルモノトハ思ハレザリシナリ

同時ニ一般人民モ亦米國政府及ビ人民ノ態度ニ憤懣シ本月十一日一群ノ學生ハ隊ヲ成シテ當市ノ重ナル街路ヲ行進シテ對米示威運動ヲ為シタルシガ彼等又各々日本國旗ヲ携帶シテ日本萬歳ヲ唱ヘタリ當地ノ人心斯ル情態ニ在ル際恰モ新任日本公使ノ近々到着スベキヲ聞キ大ニ歡迎運動ヲ為サシコトヲ計畫シ折柄政府ニ於テモ特別列車ヲ派遣シテ接迎スルコト、ナリシカバ之カ為メ益々力ヲ得テ遂ニ斯ル異常ナル大歡迎ヲ為スニ至リタルナリ

次ニ本邦ヘノ答礼大使トシテ「フエリス、ディヤス」將軍

足ラザルヲ以テシテ其快諾ヲ得而シテ同將軍ノ來ル十月ノ大統領選舉期日前ニ歸國センコトヲ希望シテ急遽出發セシメタル次第ナリ初メ同將軍ノ日本行答礼大使任命ニ就テハ上院常置委員ノ秘密會ニ於テ審査ノ際此事ハ目下ノ事情ニ鑑ミ米國政府ヲ怒ラシムルヤモ測リ難シトノ理由ヲ以テ反對シタルモノモアリタルニ拘ラズ結局大多數ヲ以テ承認ヲ与ヘタル次第ナルガ昨今同將軍ノ勢望復タ旧ノ如クナラズ且ツ來ル十月ノ選舉期迄已ニ時日幾何モナキニ鑑ミ當地ノ政治家及新聞紙ハ同將軍ノ此行ヲ以テ政府の追放ナリト評シ對米關係ヨリ之ヲ評論シタルモノナシ

(大正二年七月三十一日)

二六五 八月九日

牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛(電報)

米國ノ對墨提案ニ関シ在墨日本公使ノ支援要

請ニ對スル回答振回訓ノ件

第一九三號

貴電第二四一号ニ関シ

墨國政府ハ「リンド」ガ墨國政府ニ對スル信任狀及承認狀ヲ携帶スルニ非ザレバ其墨國滞在ヲ喜バザル所ナル旨八月

六日公文ニテ在墨国米国代理大使ニ通牒シ在墨国外交官ハ何レモ墨国政府ノ措置ヲ是認シ此上ハ米国政府ガ「リンド」ヲ中途召還スルノ外ナカルベキモ之ガ報復手段トシテ兵力干涉其他ノ方法ニテ墨国ヲ苦ムルノ策ニ出ヅルモ図リ難ク事態甚重大ナリト評シ居リ「ウキルソシ」大使ノ行動ニ望ヲ厲セシ墨国人士ハ同大使ノ辭職ガ聞届ケラレ「リンド」ノ派遣トナリタルヲ以テ尠カラズ失望シ居レル旨安達ヨリ來電アリ右様ノ事情ノ下ニ於テ帝國政府ガ「リンド」使命ノ内容ヲモ審ニセズ我公使ヲシテ漠然墨国政府ニ向ヒ米國ノ提議ヲ拒絶セントスルガ如キ場合ニハ先ヅ我忠言ヲ求メラレタシト予メ打合セヲ行ハシムルコトハ甚ダ「オークワード」ニテ強テ之ヲ取計フニ於テハ頗ル重大ナル責任ヲ米國双方ニ對シテ負フ次第ニテ若又使命ノ内容ヲ予メ示サル、トスルモ之ヲ見ル以上ハ自然是非ノ見地起ルベク從テ進退ニ困難ヲ生ジ又列強ニ對シ好マシカラザル位地ニ陥ラズトモ限ラザルニ就テハ貴官ハ前記安達ノ電報ニ拘ハラス尚行掛上必要アラハ國務卿ニ對シ同官ガ本件ニ付内談シタル情意ハ帝國政府ノ多トスル所ナルモ先方ノ希望ノ如ク予テ日米間ニ話合置キタル結果トシテ帝國公使ヲシテ干与セシ

國代表者ニ宛テタリト答ヘタリ依テ本使ハ帝國政府ニ於テハ未タ此事實ヲ知悉セスシテ前記ノ訓令ヲ發送シタルモノト察セラル、ニ付自然本件ニ付他國政府ノ執ルヘキ態度ヲモ考量スルノ必要アルベク要スルニ右訓令中ニ示ス如ク墨西哥國ノ時局平定ハ帝國政府ノ常ニ念トスル所ナルカ故今後形勢發展殊ニ他國政府ノ態度ニ依リテハ適當ノ公正ナル手段ノ範圍内ニ於テ此目的ニ協力スルコトモアルベシ就テハ國務長官ニ於テ右他國政府ヨリ接手セラルヘキ回答ハ御差支ナキ限り本官ニ内示セラレンコトヲ望ムト述ヘタル処同官ハ之ヲ承諾シ帝國政府ノ意見ハ深く諒トスル旨ヲ答ヘタリ本使ハ更ニ進テ墨西哥國政府カ「リンド」ノ來墨ニ異議ヲ唱フルヤノ新聞所報ヲ指摘シタルニ同官ハ「リンド」ハ米國大使館ノ顧問トシテ派遣セラレタルモノナルニ付墨西哥政府ニ於テ其來墨ニ異議ヲ唱フヘキ理由ナシト語レルニ付本使ハ前回同官ノ談ニ依ルニ大統領ノ名代ナル資格ヲ与ヘラレタルニアラズヤト問ヒタルニ「personal representative of the president to the Embassy」ナリト答ヘタリ次ニ本使ハ若シ墨西哥國政府ニ於テ「リンド」ノ帶有スル提議ヲ拒絶スルコトアラバ米國政府ハ如何ナル措置ヲ執ラ

ムルコトハ乍遺憾其需ニ応ズルヲ得ザル旨前陳ノ趣意ヲ取捨シテ説明セラレタシ尤モ墨國時局ノ平定ハ帝國政府ノ固ヨリ希望スル所ナルヲ以テ今後米墨間ノ交渉ニ付在墨帝國公使ガ適當且有益ニ斡旋ノ勞ヲ執リ得ベキ余地アリト自ラ認メタル場合ニハ帝國政府ハ公使ニ其勞ヲ執ラシムルコトニ何等異存ナキ旨併セ言明セラレタシ
本電心得ノ為安達ニ転電アレ

二六六 八月九日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

米國ノ對墨提案ニ関シ在墨日本公使ノ支援要
請ニ對シ國務長官ニ面会回答ノ件

第二四七号

貴電第一九三号ニ関シ八月九日國務長官ニ面会シ貴訓ノ趣旨ヲ伝ヘ此際帝國政府ニ於テ同官ノ希望セラルルガ如キ措置ヲ執ルトキハ為ニ種々ノ誤解嫌疑ヲ招クノ虞アルノミナラス米墨双方ニ對シテ重大ナル責任ヲ負フニ至ルベキヲ以テ之ヲ避クル外ナキコトト思考スル旨ヲ告ゲ尚同官カ本使ニ開陳セラレタル希望ハ他國政府ニ對シテモ申入レラレタルコトナキヤト問ヒタルニ同官ハ往電公文ハ同時ニ二十一

ルベキヤト問ヒタルニ其場合ニハ別ニ適當ナル方法ヲ講ズル外ナシト答ヘ追テ米國政府ニ於テ墨西哥國ニ干涉スルニ至ルコトナキヤトノ問ニ對シテハ同官ハ干涉ノコトハ未タ何等米國政府ノ詮議ニ上リタルコトナシト云ヘリ察スルニ米國政府ニ於テハ「リンド」派遣ニ付墨西哥國ノ反對ヲ受ケタルニ顧ミ其資格ニ関スル説明一變セルカ如シ
右在墨公使ヘ電報済ミ

二六七 八月十日 在墨國安達公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

「メキシコ」内乱ニ對スル米國ノ態度ニ関ス
ル在墨各國公使連ノ觀察報告並日本公使ノ執
ルベキ態度ニ関シ請訓ノ件

第三九号

過日來當國內乱ニ関シ当地駐劄公使連ノ觀察ヲ聞合セツツアル処彼等ノ内話ニ依レハ米國ノ底意ハ當國ニ内乱ヲ起シ之ヲ繼續セシメ好機ノ乘スヘキアラハ當國ヲ分割スルカ若ハ全ク其意志ニ甘ンズル一二ノ小共和国ニ獨立セシメテ以テ徐ロニ巴奈馬ヘノ陸路ヲ掌握セントスルニアルコト中央亞米利加及南亞米利加竝ニ當國ニ對スル米國從來ノ行動ニ照

シ明ナリ此底意アルカ為當国北方ノ叛徒ニモ内密ニ莫大ノ援助ヲ与ヘ内乱ヲ継続セシムル次第ナルカ故ニ米國ノ態度ヲ明ニセシムルコト當国平定事業ニ取りテ焦眉ノ急ナルヲ信シ歐洲諸公使ハ数回會議打合ヲ遂ケ七月上旬各其本國政府ニ電申シ右諸政府ハ米國政府ニ對シ其對墨政策ヲ明言スヘキ旨勸告シタル結果同政府ハ駐墨米國大使「ウキルソン」ヲ召還シ其說ヲ聞クコトナリシモ其穩健ナル意見ハ同政府ニ排斥セラレタルニヨリ其辭職ヲ来シ遂ニ「リンド」ノ派遣トナリ時局甚タ面白カラザル次第ナルカ米國カ當國ニ對シ傍若無人ノ措置ヲ執リ他國人ノ利害ヲ顧ミザルコトヲ防ク為ニハ時々米國ニ對シ忠告ヲ試ムルコトヲ要スルコト今後モ多々有之ヘキカ是迄ハ當地ニ日本國正式公使ナカリシト加州問題ニ關スル日米ノ談判喧カリシニヨリ日本外交官ノ會議ニ出席スルコトヲ要求セサリシ次第ナレトモ今後ハ本使ニ於テモ是非出席シ意見ヲ發表スルコトヲ望ムノミナラス歐洲大國ノ例ニ倣ヒ本邦ニ於テモ軍艦派遣ヲ熱望シ尠クトモ練習艦位ノ派遣ヲ望ム旨ヲ繰返スニ依リ本使ハ常ニ日米兩國間ノ親善ヲ増進スルハ本邦外交ノ本義ニシテ亜細亞問題ノ甚ダ重要ナル次第等ヲ述ヘ体ヨク応酬シ居レ

NOTE VERBALE.

The American Ambassador, acting under instructions from the Secretary of State, has the honor to inform His Excellency the Minister for Foreign Affairs of His Imperial Japanese Majesty that the American Government has issued to the press the following statement in regard to the appointment of Governor Lind as Adviser to the Embassy at Mexico:

“The statement of the Mexican Foreign Office was based on newspaper misrepresentations for which this government is not responsible. In sending Governor Lind as Adviser to the Embassy, the President is entirely within his rights, and this department will not assume that his going will be regarded as unfriendly when the character of his mission is understood”.

The American Ambassador avails himself of this occasion to convey to His Excellency the Minister for Foreign Affairs the renewed assurances of his highest consideration.

(欄外註記)

「八月十二日米國大使館參事官ブランシャール松井次官へ面会手交」

トモ今後時局發展ニ依リテハ(當国内乱ノ狀況ハ昨今官軍ニ利アリ)何時歐洲諸國公使間ノ會議ニ出席ヲ求メ意見ヲ徵スルコトアルヤ計リ難シ右公使連觀察ノ當否ニ關シテハ本使ハ未タ確信ヲ有セス去リナカラ墨西哥國ノ事件ニ關シ本邦单独ニ米國ニ對シ何等ノ措置ヲ執ルコトノ不可ナルハ申上グル迄モナケレドモ當國ノ平定ヲ希望スルコトニ關シテハ本邦モ歐洲諸國ト同様ノ位置ニ在ルコトナレバ主義トシテ歐洲諸國ト協調スルコト道理上適當ナルノミナラス米國ト雖何等惡感ヲ惹起スヘキ筈ナシト存セラル就テハ右各公使會議咄嗟ノ間ニ開催セラレ電信不通等ノ為請訓スル暇ナキ場合ニ本使ノ執ルヘキ大体ノ方針ニ關シ予メ御電訓アラハ極メテ仕合ニ存ス

二六八 八月十一日 在本邦米國大使ヨリ
牧野外務大臣宛

米國ガ墨國ニ派遣スル「リンド」氏ノ資格ニ關シ在本邦米國大使ヨリ申出ノ件

EMBASSY OF THE

UNITED STATES OF AMERICA

No. 3 August 11, 1913.

二六九 八月十一日 牧野外務大臣ヨリ
在墨國珍田大使宛(電報)

米國ノ我支援要請ニ對スル回訓ニ關スル件

第一九四号

貴電第二四五号乃至二四七号ニ關シ

國務卿当初ノ内談ハ我方单独ノ斡旋ヲ求ムルノ趣意ト認メタルニ付往電一九三号ノ如ク訓令ニ及ビタル処今回ノ貴電ニテ同文照会ガ二十一ヶ國ニ發セラレタルコトヲ承知シ前回ノ訓令ハ異ナレル事情ノ下ニ發セラレタルニ付問題ガ多数列國ノ共同關係トナレル以上當方ニ於テモ更ニ考量ヲ要スル次第ナリ就テハ右ノ点貴官ニ於テ尚先方ニ明ニシ置クコトヲ必要ト認メラル、ニ於テハ然レバ取計ハレタシ右在墨公使ニ転電アレ

二七〇 八月十一日 牧野外務大臣ヨリ
在墨國安達公使宛(電報)

「メキシコ」内乱及米墨關係ニ關スル在墨各
國公使會議ニ留保附参与方回訓ノ件

第一三三号

貴電第三九号ニ関シ

墨国事態ノ平定及米墨関係ノ改善ハ主義上帝国政府ノ希望スル所ナルハ勿論ナリト雖實際問題ニ付テハ具体的ニ之ヲ承知スルニ非ザレバ予メ訓令シ難キガ故公使會議ニ出席ノ節ハ必要ノ場合ニハ電訓ヲ仰クベキ保留ノ下ニ何等「コンミット」セズ参与セラル、コトニ致度シ

本電ハ貴電三八号及三九号ト共ニ珍田大使へ転電アレ

~~~~~

二七一 八月十二日

在米田珍田大使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

米國ノ對墨提案ニ對シ列國ノ支援要請ニ付我

方ノ執ルベキ態度ニ関スル件

第二四九号

八月十二日國務長官ト会見ノ序ヲ以テ貴電第一九四号ノ御趣旨ヲ陳述シタルニ同官ハ往電第二四七号本使ノ談話ニテ斯克アルヘシト期待セル旨ヲ述ヘ尚本件ニ付英独露三国ヨリハ既ニ回答ニ接シタルカ何レモ米國ノ依頼ヲ容レタルモノニシテ墨西哥國政府ニ對シ米國政府ヨリノ提議ニ付テハ篤ト考量ヲ加ヘラレタキ旨ノ忠言ヲ与フヘシトノ趣旨ナル趣ヲ語リ尤モ米國提議ノ内容ハ其承知セサル所ナルヲ以テ

何等是非ノ意見ヲ示サ、ルハ勿論ナリト附言シタリ就テハ前記諸國政府ニ就キ一応右ノ趣ヲ確メラレタル上我ニ於テモ成ルヘク列國ト歩調ヲ一ニセラル、様致シタシ

~~~~~

二七二 八月十三日

牧野外務大臣ヨリ
在米田珍田大使宛(電報)

米國ノ對墨提案ニ関シ列國ノ支援要請ニ對スル主要各國ノ回答確メ方安達公使へ訓令ノ件

第一九九号

貴電第二四九号ヲ安達公使ニ転電セラル、ト同時ニ本大臣ヨリノ訓令トシテ在墨英、仏、独、露等主ナル國ノ公使ニ就キ本國政府ノ回答ヲ確メ本省及貴官ニ電報スル様電達セラレタシ尚貴官ニ於テモ其他ニテ確メノ途アラバ取り纏メ回報アリタシ

~~~~~

二七三 八月十五日

在米田珍田大使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

米國ノ對墨提案ノ内容ヲ米國務長官ヨリ内告

シ我方ノ支持要請ノ件

第二五五号(至急)

八月十五日國務長官ハ本使ノ來訪ヲ求メ内話セル所ニヨレ

バ「リンド」ハ愈々本日米國政府ノ提議ヲ墨國政府ニ申入レタルニ付國務長官ハ其旨ヲ在外米國代表者ニ電報シ同代表者ヨリ各其駐在國外務大臣ニ右提議ヲ読上ゲ内告スルコト、セル趣ヲ以テ本使ニモ同様之ヲ読ミ聞カセタリ次テ國務長官ハ右提議ガ全然公平ノ趣旨ニ出デタルモノナルニ顯ミ帝國政府ニ於テモ之ヲ支持スルノ措置ヲ執ラレンコトヲ希望スル旨ヲ述ベ本使ヨリモ希望ヲ帝國政府ニ伝達センコトヲ求メタリ之ニ對シ本使ハ假ニ在墨國公使ニ於テ列國同僚ト協同措置ヲ執ルコトヲ帝國政府ヨリ同公使ニ訓令アルトキハ米國政府ニ於テ満足セラルベキヤト問ヒタルニ國務長官ハ然リト答ヘタリ即チ同官ハ他ノ列國ガ米國ノ提議ヲ支持スベキコトヲ予期シ日本國公使ニ於テ列國使臣ト協同ノ措置ヲ執ルハ結局日本國ガ米國ノ提議ヲ支持スルコト、ナリ之レガ為メニ満足ナル結果ヲ生ズルモノト思考スルモノ、如シ右提議ハ在日本米國大使ヨリ直接御聴取アルベキコト、察スルニ付茲ニハ詳細ヲ省略スルモ其旨ハ第一、墨國ニ於ケル各派ハ直チニ戦闘ヲ休止スベキコト、第二、大統領公選ヲ施行スベキコト、第三、Huertaハ今後大統領選舉ニ候補ニ立タザルコト、第四、右公選ノ結果ハ全國

一樣ニ之ニ承服スベキコト是ナリ就テハ右御考量ノ上本使ヨリ米國政府ニ對スル回答振ニ何分ノ義御電訓ヲ請フ尚國務長官ハ「リンド」ガ右提議ヲ申入レタル事實及其提議ノ趣旨ニシテ若シ世間ニ漏泄スルガ如キコトアラバ其ノ目的ノ遂行ニ重大ナル障害ヲ來スベキニ付嚴ニ之ヲ機密ニ附セラレンコトヲ依頼セルニ付右特ニ御注意相成様致度シ在墨公使濟

~~~~~

二七四 八月十九日

牧野外務大臣ヨリ
在米田珍田大使宛(電報)

米國ノ對墨提案ニ付日本政府ノ支援ヲ得タキ

旨在本邦米國大使ヨリ申出ノ件

第二〇四号

貴電第二五五号ニ関シ

在本邦米國大使八月十九日來訪本國政府ノ訓令ヲ持參シ其寫ヲ交付スベカラズトノ命令ニ依リ單ニ之ヲ内示セリ要領左ノ通り

「墨國紊亂ノ狀態ヲ此上永ク繼續セシムルコトハ最早堪フル能ハザル所ニシテ米國ノ墨國ニ對スル地位ハ特殊ナリ米國ガ墨國ノ平定ヲ確保センガ為メ苦慮スルコトハ列國ノ齊

シク同情スル所ト信ズ米國ハ右目的ノ為メ措置スルニ当リ
固ヨリ墨國ノ独立及主權ヲ尊重シ之ヲ損傷セザルコトニ注
意ス又米國ハ何等一派ノ利益ノ為ニ行動スルモノニ非ザル
コトヲ言明ス米國ハ今般云々ノ提議(貴電記載ノ四ヶ条ト
同ジ)ヲ墨國ニ為シタルガ右ハ墨國ニ於テ承認ニ困難ナル
モノトハ認メズ仍テ帝國政府ニ於テモ墨國政府ニ対シ右提
議ヲ慎重考量スル様勸告ヲ与ヘラレタシ」

本大臣ハ政府ニ於テ詮議ノ上回答スベキ旨ヲ答ヘ置ケリ不
取敢電報ス

在墨公使ヘ転電アレ

二七五 八月二十一日 牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛(電報)

米國ノ対墨提議支持ノ米國要請ニ対シ回答ノ
件

別電 同日牧野外務大臣ヨリ珍田大使宛往電第二〇七
号

在本邦米國大使ニ対スル右回答

第二〇六号

往電第二〇四号ニ関シ

別電第二〇七号ノ通り八月二十一日米國大使ヘ回答シタル

ニ付委細右ニテ御承知ノ上國務卿ヘハ然ルベク談話相成タ
シ別電ト共ニ安達ヘ転電アレ

(別電)

八月二十一日牧野外務大臣宛在米國珍田大使

宛電報第二〇七号

米國ノ対墨提議支持ノ米國要請ニ対スル在本

邦米國大使宛回答

第二〇七号

The Imperial Government have given a careful
consideration to the communication personally made by
His Excellency the American Ambassador on the 19th
inst. under instructions from his Government, and
desire to give expression to their appreciation of the
high motive which has prompted the President in
making certain proposals to the Mexican Government.

In view of the comparatively limited interests of
Japan in Mexico, the Imperial Government do not feel
justified in making their representative act independently
of his colleagues and play a conspicuous part in the
present situation in that country.

Accordingly they will telegraph to Mr. Adachi

the purport of the communication of the United States
Government and instruct him to confer and act in
concert with his colleagues in order to contribute to
the furtherance of peace and tranquillity in Mexico as
well as to the promotion of international good under-
standing.

二七六 八月二十七日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

米國大統領議會ニ対スル教書ニ於テ「メキシ

コ」ガ米國提案ヲ拒絕セル旨發表ノ件

第二六三号

墨國問題ニ関シ大統領ハ八月二十七日自ラ議會ニ臨ミ曩ニ
「リンド」ニ与ヘタル訓令即チ墨國ニ対スル四箇条ノ提議
ヲ含ムモノ及右提議ヲ拒絕セル墨國政府ノ回答書全文頗ル
長文ノモノヲ公表シ且墨國政府ノ斯ノ如キ態度ハ全ク米國
民ノ感情ヲ誤解シ尚米國行政部ノ措置ガ国民ノ輿望ヲ代表
スルノ事實ヲ信ゼザルニ基クモノニシテ其ノ結果自ラ孤立
ノ境遇ニ陥ルモノナリ此際吾人ハ暫ク同政府ノ覚醒ヲ待ツ
ノ外ナク其間吾ニ於テハ厳正中立ヲ守ル為昨午三月ノ兩院
決議ニ依リ今後米國ヨリ墨國ニ仕向ケラル、軍需品ハ一切

一四「メキシコ」革命動乱一件 二七六 二七七

其輸出ヲ禁止スヘク又在墨米國人民ニ対シテハ此際危険ヲ
避クル為直ニ立退方ヲ勸告シ且同国内各所ニ於テ実權ヲ握
レルモノニ対シテハ米國人民ノ残留財産ノ安固ニ対シ嚴密
ナル成規ニ依ラシムヘシトノ趣旨ノ教書ヲ朗読セリ

墨濟

二七七 八月二十九日 在墨國安達公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

米墨關係及訪日使節派遣ニ関シ「メキシコ」

外務大臣談話ノ件

第六〇号

八月二十九日墨國外務大臣ヲ訪問シ時局ニ関シ尋ネタルニ
同大臣ノ語ル所ニ依レハ米國政府ハ墨國憲法改正規定ニ遵
拠シ現任大統領ガ来ル臨時選舉ニ於テ候補者タルヲ得ザル
コトヲ知ラザリシモノ、如クナレハ右改正規定ニ遵拠シ其
重要ナル一要求カ自然達セラレタルヲ知リタル今日ハ最早
之ニ満足スヘキ筈ナラント思ハル又米國政府ノ墨西哥ニ対
シ軍需品輸入禁令ハ素ヨリ米國ヨリノ輸入ノミヲ指スモノ
ニシテ他諸國ヨリノ輸入ニハ何等關係ナシトノコトヲ米國
政府ニ就キ確メタリ右様ノ次第ニテ米墨兩國間ノ關係モ今

三八七

ヤ常態ニ復スヘキ道理ナルガ万一米國政府ノ底意ガ暴力ニ訴ヘ其私慾ヲ逞ウスルニ在ラハ其場合ニハ墨國人ハ総テ一人ノ如ク團結シテ最後迄抵抗スルコトアランノミト云ヘリ次ニ本使ハ貴電第二〇号御回訓ノ趣旨ヲ体シ天皇陛下ハ九月下旬頃御帰京在ラセラル、御日取ナル由電報アリタルニ付「ディアズ」大使ニ於テ例ヘハ十月中旬頃ニテモ着京アラハ御接受ノ御都合宜シキナラント思考スル旨ヲ告ケタルニ同大臣ハ聊意外ノ面持ニテ先ツ陛下御健康ニ関スル古報ニ対シ祝意ヲ表シタル後日本國政府ガ最近ノ好機ニ於テ同大使ヲ受ケラル、ハ深ク感謝スル所ナル旨ヲ述ヘ瞬時黙シタル後本件ニ関シテハ種々ノ事情アレハ日本國政府ニ於テ今ヨリ同大使接遇準備杯ハ始メラレザランコトヲ希望ス何レ適當ノ時機ニ於テ何分ノ義申進スヘシト答ヘラレタリ

二七八 十月十一日 在墨國安達公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

「メキシコ」仮大統領議員百名ヲ捕縛投獄シ

議會ヲ解散ノ件

第八二号

十月十日午後六時墨國大統領ハ墨國上下兩院ヲ解散シ米ル

附記 十月十六日在本邦米國大使ヨリ牧野外務大臣ニ手交セル文書

第二四七号

十六日米國大使来省ノ上在墨國米國大使館ヨリ墨國政府ニ提出セシメタル二個ノ通告ヲ本大臣ニ手交セリ其要領次ノ如シ(一)十月十二日附「立法府ニ対スル暴挙ハ文明國ノ挙テ驚愕スル所ニシテ米國ハ之ヲ默視スル能ハス政府ノ威信ヲ保タントセハ一切ノ処罰ハ公正ナル審理ヲ要ス」(二)翌日附「ヒュエルタノ行為ハ米國ニ対シ不誠実ニシテ憲法上ノ保障ヲ蹂躪シタルモノナルヲ以テ選舉ノ結果ヲ公平ト認ムルヲ得サルニ付選出セラルヘキ大統領ヲ承認スル能ハス」尚ホ右ニ対シ本大臣ニ意見アラハ之ヲ電報スヘキ旨本國政府ヨリ電訓アル趣申出デタルニ付本大臣ハ第一ハ一般的ノモノ故別ニ意見ヲ述フルノ要ナシ又第二ニ付テハ帝國カ墨國ニ対シ有スル利害關係ハ主トシテ商業的ノモノニシテ政治的の關係ハ極メテ少ナク同國ニ於ケル秩序ノ一日モ速ニ回復センコトヲ望ム旨答ヘ置キタリ

全文安達ハ転電アレ

(附記)

十月二十六日大統領選舉ト同日ニ新ニ上下兩院議員ノ臨時総選舉ヲ行フノ命令ヲ發布セリ是ヨリ先キ旧「マデロ」党ニ属スル上院議員 Dominguez ナル者失踪セルヨリ十月九日上下兩院ニ於テ問題ヲ惹起シ殊ニ下院ニテハ此事件ヲ審査スル為委員ヲ組織シ以テ政府ヲ詰問スヘク尚ホ将来上下兩院議員中失踪者ヲ明ラカニ説明シ能ハサルトキハ議員ハ現政府以外ニ有力ナル生命財産ノ保障ヲ与フヘキ地ニ到リテ開会スヘシトノ決議案ヲ通過スルニ至レルヲ以テ十月十日午後五時内務大臣ハ軍隊ト共ニ下院ニ臨ミ該案ヲ以テ三権分立ノ基礎ヲ破ルモノトシテ其ノ再議ヲ要求シ議院内ノ混雜ニ乗シ命ヲ軍隊ニ伝ヘ直チニ旧「マデロ」党及独立自由党ニ属スル議員百名ヲ捕縛シテ監獄ニ送レリ前記大統領ノ解散命令ハ之ト同時ニ發布セラレタルモノナリ(十月十一日午前)

二七九 十月十六日 牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛(電報)

「メキシコ」國「ウェルタ」將軍ノ議會圧抑

ニ関スル米國ノ對墨抗議書ノ寫ヲ在本邦米國

大使ヨリ外務大臣ニ手交ノ件

十月十六日在本邦米國大使ヨリ牧野外務大臣ニ手交セル文書

The American Embassy at Mexico was directed, under date of October 12, 1913, to transmit the following message to the Mexican Minister for Foreign Affairs for communication to General Huerta:

The civilized world will be shocked by any violence done to legislators and it will raise serious questions not only with the United States but with other Governments as well. The United States, as a neighboring nation, could not regard with indifference the political execution of officials. A Government to deserve respect must conform to established laws and usage, which require that a fair and full hearing of all charges be given before punishment can be legally inflicted.

The Embassy was again directed, on the next day, to transmit the following message to the Mexican Foreign Office:

The lawless methods employed by General Huerta have greatly shocked the President and as a sincere friend of Mexico he is greatly distressed

一四 「メキシコ」革命動乱一件 二八〇 二八一

at the situation which has arisen. He cannot regard otherwise than as an act of bad faith towards the United States the action of General Huerta in dissolving the Mexican Congress and arresting deputies. It not only violates Constitutional guarantees, but all possibility of a free and fair election is thereby destroyed.

The President believes that an election held now under existing conditions would be deprived of the sanctions with which the law surrounds the ballot; its result, therefore, could not be held to represent the people's will. The President feels that he would not be justified in accepting the result of such an election or in granting recognition to a President so chosen.

二八〇 十月十八日 牧野外務大臣ヨリ
在墨国安達公使宛(電報)

在墨外交団方各本国政府ニ対シ「メキシコ」
へ軍艦派遣方ヲ稟請セリトノ新聞報道ニ関ス
ル件

第二七号

三九〇

十月十八日ノ東京諸新聞ハ紐育ヨリノ報道ニ依レハ貴地外交団ハ万一ノ場合ニ備フル為各本国政府ニ対シ墨国へ軍艦派遣方稟請スルコトヲ決議セル趣ノ倫敦電報ヲ掲載セリ就テハ右決議ノ真否及貴官ノ御見込併セテ回電アレ

二八一 十月十九日 在墨国安達公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

在墨国英仏独西公使等ガ「メキシコ」へノ軍
艦派遣其他ニ付各本国政府ニ稟請セル事実報
告ノ件

第九〇号
貴電第二七号ニ関シ

第一、外交団ノ決議又ハ公使會議等アリタルニアラス最寄リ同僚朝夕往来シ思々ニ本国ニ上申シツアリ「トレヲシ」陥落後形勢甚タ重大トナリタルニ関シテハ意見一致シ居レリ英国公使ハ同国カ「ベルムダ」島ニ数隻ノ軍艦アリ常ニ近海ヲ游戈スルコトニ鑑ミ殊ニ本国政府ニ軍艦増派ヲ請求スルノ必要ヲ感セス仏国公使ハ既ニ軍艦一隻増派ヲ本国政府ニ請求シタレハ約二十日後ニ当国近海ニ至ルヘシト信スト云ヘリ独国公使ハ現下「ヴェラクルス」

ニ練習艦隊アレトモ万一ノ場合ノ役ニ適セサルニ付十月上旬大巡洋艦「ブレーメン」号来航スルコトナリ居レル旨ヲ述ヘ西国公使モ本国政府ニ軍艦派遣ヲ請求シタル由

第二、英仏独西国公使等ハ米國政府カ頃日革命軍ニ交戦權ヲ認ムル意嚮アルヲ推察シ右ハ当國平定事業ノ為ニ由々敷大事ナリトテ十月十七日来各本国政府へ電請米國政府ニ警告セシコトヲ請求シタリ

第三、万一ノ場合米國ト共同シテ当國平定事業ニ干涉スルノ案ハ昨今英仏独公使カ宿題トシテ真面目ニ考究シ居ル所ニシテ本使ノ私見ヲモ求メタリ

本電報ニ関シテハ篤ト熟考ノ上成ルヘク速ニ私見上申スヘキガ不取敢事実ノミ申報ス

二八二 十月二十三日 在墨国安達公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

十月十日ノ議會彈圧ニ付「メキシコ」大統領
ヨリ在墨外交団へ説明ノ件

第九四号

十月二十三日墨國大統領ハ外交団ヲ招集シテ十月十日政変
一四 「メキシコ」革命動乱一件 二八二 二八三

ノ原因ヲ説明シテ革命軍ト共謀シタル証跡ヲ得タルガ為メニ議員ヲ投獄シタリト述ベ十月二十六日ノ選挙ニ於テ同大統領ニ於テ仮令当选スルコトアルモ決シテ之ヲ承諾セザルベク政府ハ何レノ候補者ニモ偏セズ単ニ秩序ヲ維持シ以テ投票ノ完全ヲ期スルニ止ムベシト述ベタルモ外交団ハ之ニ対シテ何等ノ答辞ヲ述ベズ各其本国政府ニ右ノ事實ヲ電報スルコト、セリ

二八三 十月二十三日 三井物産株式会社社長ヨリ
牧野外務大臣宛

日墨合併ニヨル兵器製造会社設立ニ関シ三井
物産株式会社ヨリ援助方願出ノ件

(十一月十三日接受)

大正二年十月二十三日 三井物産株式会社

社長 三井八郎次郎

外務大臣男爵 牧野伸顯閣下

拝啓

墨國政府兵器製造ノ件ニ関シ去ル八月四日附弊社出張員小栗饒ヨリノ報告ニ依レハ墨國大統領ヨリ左ノ通り内談有之候

三九一

一四 「メキシコ」革命動乱一件 二八四

一、墨国政府ハ内乱及外戦ニ備フル為メ兵器ノ独立ヲ計ル目的ニテ外国商社会社ノ資本ヲ以テ兵器廠設立ノ意向ナルコト

二、此設立ニ付墨国政府ハ墨府外七、八哩ノ地「サンタ、フヘー」ニアル小規模ノ火薬製造所ノ土地建物等一式、職工及目下独逸ニ注文セル小銃実包製造機械（現在ノ分ト合セ一日約六万発位ノ製造能力ヲ有スル筈）ヲ提供シ幹部タルヘキ人員及資本ハ之ヲ外国ニ仰ギ先ヅ小銃実包及大砲彈ノ製造ヨリ追テ小銃及大砲ニ及ボスコト

而シテ右資本ハ之ヲ欧米ヨリ求ムルコトハ政治上ノ嫉視劇シクシテ面白カラザル故可成之ヲ日本ニ仰ギ度シ右ニ対シ弊社意見トシテ左記条件ヲ提議可致旨同人ヘ指図致置候

一、火薬製造業ヲ日墨共同営利事業トシ会社ヲ設立スルコト

二、「サンタ、フヘー」所在現在ノ兵器廠ハ価格ヲ定メテ墨国側ノ出資トナスコト

三、今後新ニ買入ルヘキ機械ノ代金ハ日本側ノ出資トナ

鑑ミ果シテ来朝シ得ルヤ否ヤ懸念アルニ付二十二日石井大使ニ対シ直接 Dela Barra ニ渡来ノ決心ナルヤヲ内々問合ス様電訓シタリ就テハ右ニ関シ貴官ノ御意見返電アリタシ

二八五 十月二十四日 在墨国安達公使ヨリ
牧野外務大臣宛（電報）

「メキシコ」国ニ於ケル異変ニ備ヘ我軍艦派遣ノ必要及共同干涉ノ可否等ニ付意見具申ノ件

第九五号

拙電第九〇号ニ関シ其ノ後各方面ノ情報ニ依リ熟考シタルニ

(一)昨今未タ大動乱ノ兆候ナキモ十月十日議會解散議員投獄ノ実情ヲ聞クニ右議員等ハ北方革命軍ト内通シテ二月ノ革命ヲ首府ニ再演セントシタル証跡アルヲ発見シタルニ依リ政府ハ迅速ニ高压手段ヲ執リタル由ニ有之十月二十六日正副大統領及両院議員総選挙ハ「フェルタ」ニ於テ予メ何レノ候補者モ大統領ニ当選セラレザル様仕組ミテ挙行シ自己ノ専制の主権ヲ継続スルノ考案ナル由真否ハ確ナラサルモ今後数ヶ月間ハ何時如何ナル異変ノ起ルヤモ計リ難ク極力

一四 「メキシコ」革命動乱一件 二八五

三九二

スコト

四、墨国政府所要ノ実包ハ必ス本廠ヨリ供給シ本廠供給不足ノ場合ニ限り外国品ヲ買入レ得ルコト

五、各国ノ例ニ倣ヒ今後十ヶ年間一ヶ年所要数量及価格ヲ協定シ置クコト

六、他ニ大砲彈及小銃彈製造所ヲ設立ノ際ハ本契約条件ニ準シ共同事業トナスベキ確約ヲ得ルコト

右ハ提案セシヤ否ヤ不明ニ候得共更ニ詳細ナル計画書ヲ調製提出可致考ニ御座候間御含之上本件成立ニ関シ特別ノ御援助相仰度概要御報告旁此段奉懇願候 敬具

二八四 十月二十四日 牧野外務大臣ヨリ
在墨国安達公使宛（電報）

「メキシコ」国ヘ日本軍艦派遣問題及「メキシコ」国答礼使節来朝ニ関スル件

第二八号

貴電第九二号後段ニ関シ軍艦派遣ノ件ハ貴官御見込ノ電報ニ接シタル上ニテ詮議スベキニ付情報隨時電報セラルルト同時ニ御見込至急電稟セラルヘシ又貴電第八九号答礼大使ノ件ハ当方ニ於テ agrément ヲ与フルモ墨国目下ノ事態ニ

用心スヘキ時機ナルコトニ付テハ何人モ異議ナク今日迄ノ処日本国臣民ハ大体ニ於テ墨国人ノ同情ヲ博シ居レトモ当国無政府ノ状態ニ陥リタル場合ニ於テハ盜賊各地ニ横行スルニ至ルベキニ付前記ノ同情モ差シタル効力ナカルベク昨今ニ於テモ現ニ交通未タ絶エサル内地ニ於テ日本国臣民ノ迫害セラルル者アリ又先般「デアズ」大使帝国政府ニ拒絶セラレタリトノ風説新聞等ニ依リ当国ニ伝ハリタル後ハ各地ニ於テ日本国臣民ニ対シ憤慨スル者鮮カラズ万一ノ場合ニ於ケル日本国臣民保護上心痛ニ堪ヘス（万一帝国政府ニ於テ「デラバラ」特派使節任命ニ御同意ヲ表セラレザル如キコトアルニ於テハ激シ易キ当国人心ノ變動実ニ測リ知ルヘカラサルモノアルベシ）此際帝国軍艦ノ派遣最モ望マシキコトニ存セラル尤モ軍艦派遣ノ場合ニハ当府ヨリ遠ク距リタル「サリナクルス」ニ碇泊ノ外ナキニ付当館若クハ當府在留日本人ヲ保護スルノ実効ヲ挙グルハ欧洲諸国ノ軍艦ガ近ク「ヴェラクルス」ニ碇泊シテ當府ニ兵員ヲ送ルニ比シテ困難ノ程度ハ遙カニ大ナルノミナラス各地ニ散在セル帝国臣民ヲ物質的ニ保護スルコトハ實際困難ナルヘキモ「ヴィジット、オブ、カーテシー」ノ名義ヲ以テ派遣セラ

三九三

ル、ニ於テハ墨国人ハ皆深ク之ヲ憚ヒ諸外国ハ当然ノ義ト看做シ且欧米人ニ比シ諸種ノ關係ヨリ自衛ノ途ニ乏シク政府ノ保護ヲ要スル大ナル帝国臣民ノ大ニ心強ク感ズル所ニ有之重ナル諸外国ニ於テ軍艦ヲ派遣セシムル今日帝國ノミ之ヲ為サス若シ当國無政府ノ状態ニ際会シ帝國臣民多数ノ死傷者ヲ生スルカ如キコトアレハ之レ恰モ軍艦ヲ派遣セザリシ為ナルカ如キ觀ヲ呈シ帝國政府ノ威信ヲ内外ニ失スルニ至ラサルヤヲ虞ル而シテ帝國軍艦ノ派遣ガ将来此方面ニ於ケル帝國ノ施設ニ莫大ノ裨益ヲ与フベキハ本使ノ言ヲ待タサル所ナリ但シ当地諸種ノ事情ヲ綜合シ想像スルニ米國ニ於テハ帝國ノ軍艦派遣ヲ以テ「アンチアメリカン、デモンストレーション」ト誤解スルヤモ計リ難キニ付愈御決定ノ上ハ米國政府ニ対シ一応御話シ置カル、方可然ヤニ存セラル

(二)ニ関シテハ諸種ノ情報ニ照ラシ英仏公使ノ意見ヲ正當ト認ムルモ我ニ於テハ強テ何等ノ措置ヲ執ラル、必要ナカルヘシ

(三)共同干涉ノ思想ノ基ク所ハ米國ニ於テ今春以來度々実力干涉ヲ為サントセルモ何時モ日本國ニ対スル恐怖心ニ依リ

國ノ干涉ヲ厭フノ比ニアラサルヘシ加之他日當國平定事業完成シテ外國軍隊當國ヲ引揚クル際當國ニ於ケル利權ヲ獲得スル上ニモ英國ノ如キハ米國ト内応シテ暗々裏ニ我ヲ排斥スル態度ヲ執ルノ虞モアルヘク感セラル、節モアル処右様ノ場合ニ至リ仏獨兩國ノ如何ナル程度迄我ヲ支持スヘキヤ明ナラス本使ノ微力ナル或ハ御期待ニ副フ能ハサルコトヲ恐ル加之貿易上米國ノ反感ヲ恐ル、コトノ甚シキ英仏獨政府カ歐洲政局ノ多事ナル今日容易ニ其在墨公使ノ上申ヲ容ルベシトモ思ハレザルニ付今直チニ本問題ヲ決定セラル、必要ナカルベシ

二八六 十月二十九日

牧野外務大臣ヨリ
在墨國安達公使宛(電報)

「メキシコ」國近來ノ事態ニ付参考事項隨時

報告方ノ件

第三一號

貴電第一〇一號ニ関シ帝國カ墨國ニ於テ有スル政治上及通商上ノ利害關係鮮ナカラザルヲ以テ同國近來ノ事態ニ関シ帝國政府ノ參考トナルヘキ事項ハ隨時之ヲ洩ラサレタク且

在墨任國公使ニ於テモ貴官ニ対シ同様腹藏ナク懇談スル様

断行シ能ハサリシハ事實ナリト認メ「ヒュエルタ」没落其他重大ナル事由ヲ生シ當國ノ全ク混亂ノ渦中ニ陥ルモ米國ハ尚実力干涉ヲ敢テセザルベシト想像シ斯クテハ外國人ニ及ボス危害莫大ナルヲ以テ英仏獨等ヨリ進シテ米國ヲ懲罰シ共ニ當國平定ノ事業ニ干涉シ之ニ関スル責任及結果ニ関シ米國ニ最大部分ヲ与ヘ他國又相當ナル部分ヲ取ラントスルニ在リ米國ハ大躰共同干涉ニハ反對ナルベキモ前記強國ノ懲罰アレハ遂ニ承認スルニ至ルヘク列國共同干涉トアレバ當國モ強テ反對スルコトナカルヘシ斯クテ米國カ常ニ當國ヲ混亂ノ状態ニ陥レ置キ時機至レハ其思フ儘ニ之ヲ分割若クハ合併シ全然他國ノ利益ヲ蹂躪スルヲ防止シ得ヘシ又日本國ノ右共同干涉事業ニ加入シテ相當ノ部分ヲ負担スルコトハ三國ニ於テ同意ナルヘク米國ニ於テモ強テ反對スルヲ得サルヘシトノコトナリ當國ニ於テ本邦ノ既ニ有スル利權ハ遙カニ右三國ノ利權ニ及バズ從テ干涉ノ理由比較的少ナク又万一ノ場合ニ兵員ヲ上陸セシメ當國平定事業ニ参加スルコトニ関シテモ彼等ハ首府ヨリ百十里ヲ距ツル「ヴェラクルス」ニ在リ我ハ三百二十里ヲ距ル「サリナクルス」ニ在リ我ノ困難甚タ大ナリ且米國カ我干涉ヲ厭フコト右三

特ニ訓令セラレタキ旨各任國政府ヘ申入ルル様英仏獨帝國大使ヘ電訓セリ右御含迄

二八七 十月二十九日

在墨國安達公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

「メキシコ」大統領選挙ハ平穩ナリシモ政情

依然不安ノ件

第一〇九號

十月二十六日ノ選挙靜穩ナリシコトハ多少世人意外トスル所ナルモ聞ク所ニ拠レハ從來墨國ニ於テ大統領選挙當日ハ騒乱アリシコト未タ曾テナカリシト云フ蓋シ一般ノ土人多クハ無識ニシテ政治ニ冷淡ナルノミナラス選挙當日ノ如キ政府ノ警戒嚴重ナリシニ付野心家ノ煽動モ其効ナク棄權者多キ為ナルベシ殊ニ今度ノ選挙ハ當地ノ選挙場ニテモ此傾向甚シキヤニ見受ラル去レハ選挙ノ平穩ハ毫モ一般ノ事務局ヲトスルニ足ラス騒乱ニ対シ警戒スベキコト依然トノ説一般ニ行ハル

現ニ十月二十七日深夜當府附近ノ要害地方ニ Zapatisa 千余名現ハレ村落ヲ焼払タルガ官兵ハ當府ヨリ急行シ漸ク撃退セリトノ報アリ此種ノ騒乱ハ是迄通り今後モ屢次行ハル

一四 「メキシコ」革命動乱一件 二八八 二八九

ルモノノ如シ

歐洲ヨリ歸來シタル「デアズ」ハ十月二十二日以来「ヴェラクルス」滞在中ナリシ処十月二十七日同志武名ト共ニ旅館ヨリ米國領事館ヲ經テ米國軍艦 Wheeling ニ避難セルカ之レ現政府ノ同氏ニ対スル迫害甚シキニ基クトノ説行ハレツツアリ現ニ十月二十六日嘗テ同氏ノ副官タリシ一軍人來訪ノ際若シ「デアズ」当地ニ來リシナラバ我公使館ヘ庇護ヲ請フ外ナカリシナラント語レリ是ヨリ先当地仏國公使ハ本年二月ノ革命ハ米國大使ハ「デアズ」ヲ大統領タラシムル為起シタルモノナルカ故ニ「フュエルタ」ノ行動ニ失望セリト語ラレタルコトアルノミナラス八月「リンド」ノ使命ハ米國ガ「デアズ」ヲ以テ大統領タラシムルコトヲ強制セントスルニアリタリト言フモノアリ今回「デアズ」カ米國軍艦ヘノ避難ハ米墨ノ關係上注目スヘキ現象ナリトス(十月二十九日午後二時發)

二八八 十一月二日

在墨國安達公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

「メキシコ」國ノ騒乱ニ鑑ミ在留本邦人保護
ノ為帝國軍艦派遣方稟請ノ件

ナル程度マテ保護ノ実ヲ挙げ得ルヤハ予測シ難キモ兎ニ角万一ノ場合ニ応ズル為メ此際帝國政府ヨリモ軍艦ヲ派遣スル方然ルベシト内定シタルモ米國政府ノ迷惑ヲモ斟酌致度ニ付若シ米國政府ニ於テ非常ニ迷惑ヲ感ゼザル以上ハ右派遣ノ儀至急決定シタシ就テハ右ニ付貴官ノ御見込至急返電アリタシ

註 別電第二五六号省略ス在墨國安達公使發外務大臣宛第一一
三号電報(前出) ト同文ナリ

二九〇 十一月五日

在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

帝國軍艦ノ「メキシコ」派遣ニ関シ意見回申
ノ件

第三一六号

貴電二五五号ニ関シ累次當國新聞紙上ニ散見セル論評及政府當局ノ語調ニ依リテ察スルニ帝國軍艦ノ墨國派遣ハ素ヨリ當國ノ好マサル所ナルヘシト雖事實上臣民保護ニ必要ナリトセハ必ズシモ當國ノ意向ヲ顧念スルニ及バザルベク又帝國政府力其當然ノ職責タル自國臣民保護ノ手段ヲ墨國ニ於テ執ルニ対シ米國政府ヨリ異議ヲ受クベキ謂レナシト思

一四 「メキシコ」革命動乱一件 二九〇 二九一

第一一三号

三九六

(前略)

拙電第九九号具報ノ件モ其後少シモ様子解ラス「マサツラシ」英國領事力特ニ人ヲ派シ英國公使ニ報告シタル所ニ依レハ「マサツラシ」附近官軍五百名ニ対シ賊軍三千名ナル由ニテ決シテ樂觀ヲ許サス又掠奪暴行ヲ常トスル賊軍ノ勢力圈内ニアル同胞ノ消息モ少シモ解ラス(在桑港總領事館側ヨリハ或ハ何ニカ通信ノ便法アランカト存シ交渉中)本使ノ日夜心痛ニ堪ヘサル次第ニ付特別ノ御詮議ヲ以テ「ヴィジット、オフ、カーテシー」トシテ帝國軍艦御派遣ノ件至急御決定相成様致度切望ニ堪ヘス

二八九 十一月四日

牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛(電報)

帝國軍艦ノ「メキシコ」派遣ニ關スル米國政
府ノ迷惑ニ付意見問合ノ件

第二五五号

墨西哥ニ於ケル目下ノ状態ニ鑑ミ在墨安達公使ヨリ予テ軍艦派遣ノ稟請アリ詮議中ノ処別電第二五六号^(前出)ノ通更ニ申越ノ次第アリ墨國ニハ我在留民約三千ニ達シ居ル処實際如何

考ス本使ノ所見ヲ以テスレバ此際先決問題ハ軍艦派遣ノ為メ果シテ右臣民保護ノ実ヲ挙げルニ足ルヤ否ヤニ在リ若シ此点ニ付的確ノ見込ナクシテ徒ラニ一時在留民ノ不安ヲ慰撫センカ為メ又ハ從來安達公使ノ閣下宛電報中ニ暗示セル通り何等政治上ノ目的ヲ達センガ為軍艦ヲ派遣スルガ如キコトアラバ結局得失相償ハズシテ帝國政府ノ立場ニ困難ヲ加フルニ至ルベク若又之ニ反シ帝國政府ニ於テ實際臣民ノ危害ヲ被ムルコトアルヘキヲ顧慮セラレ軍艦派遣ニヨリテ大体此危害ヲ避クルコトヲ得ヘキ成算ヲ有セラルル場合ニハ強テ米國ノ意向ニ拘泥セス之ヲ決行セラレ可然カト思ハル此場合ニハ米國政府ニ対シテハ予メ明白ニ右目的ヲ通告スルコト得策ナルヘク別ニ不自然又ハ曖昧ナル名義ヲ附スル必要ナキコトト信ス將又何レニスルモ既ニ米國政府ヨリ近日墨國問題ニ關スル意見ヲ開示スヘキ旨予告アリタル今日ニアリテハ一応ノ順序トシテ先ツ右意見開示アルヘキ予定期日ヲ確メラレ其ノ模様ニ依リテ本件態度ヲ決セラルルコト穩當ナルヘシト思考ス

二九一 十一月五日

在墨國安達公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

三九七

一四「メキシコ」革命動乱一件 二九二 二九三

「メキシコ」内乱益々猖獗ニ付帝國軍艦ノ

「メキシコ」派遣方重ネテ稟請ノ件

第一一四号

拙電第一一三号ニ関シテハ未ダ御回訓ニ接セザル処当国内乱ハ益猖獗ヲ極メ漸次其区域ヲ拡張シ「マサツラン」並ニ附近在留日本人百數十ノ消息ハ如何ナル方法ニヨルモ之ヲ得ルコト能ハズ北部「ソノラ」「チウアウア」ニ関シテハ在桑港總領事館ニ於テ百方尽力シタルモ其効ナク只「エル、パソ」在留日本人ノ手ヲ経テ「チウアウア」ニ於ケル形勢危険ナルコトヲ知リタルノミ「モンテレイ」ハ官軍ノ手ニ帰シタルモ賊軍ハ更ラニ南方「Lineas」迄ヲ占領シ又十一月三日賊軍ハ「サカテカス」市ヲ攻撃シ今尚ホ会戦中十月一日「トレオン」市賊軍ニ占領セラレタル以来官軍ハ未ダ進撃ヲ開始シ得サルガ如キ状態ナリ加之財政ハ益困窮シ近頃迄「ウエルタ」ニ謳歌シタル輩モ其末路ヲ疑フニ至レリ尚ホ歐洲諸國ノ態度ニ関シテハ在英大使ヨリ大臣宛ノ往電第一五七号及第一六〇号ノ転電ニ接シタルノミニシテ其具体的ノ成案ニ至リテハ發表後ニアラザレバ確定セザルコト固ヨリナレドモ各々万一ノ場合ニ応スル為メ予メ軍艦ヲ派遣

第一二〇号

十一月九日墨国外務大臣ハ大統領ノ命ヲ奉シ内閣員一致ノ決議ニ依リ現政府將來ノ方針ヲ記セル長キ公文ヲ各外國代表官ニ送付シ来レリ該公文ハ先ツ「ヒュエルタ」政府成立ノ適法ナルコトヨリ大統領選挙期日ノ決定議會解散ノ理由及新議會ノ成立セントスルヲ叙シ更ニ過般ノ大統領選挙ハ選挙場ノ数定規ノ数ニ達セス全国民ノ意思ヲ表示シ難カリシ形勢ナリシヲ以テ新議會ハ之ヲ無効ト宣言スヘク予想セラルル旨ヲ説明シ現仮大統領ハ以テ議會ノ決定スヘキ新選挙ノ完全ナル自由ト有効トヲ期スル為依然国内平定事業ニ従事シ依然其職ニアルヘシト結ヒ現仮大統領唯一ノ目的ハ墨國ノ幸福繁榮ヲ計ル外他意ナキ旨各締盟諸國政府ヨリ認メラレンコトヲ願フト附言セリ

二九四 十一月十日 牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛(電報)

米國大統領ハ「ウエルタ」「メキシコ」仮大

統領ノ退陣ヲ要求スル意向ナル件

別電

同日牧野外務大臣發珍田大使宛往電第二六〇号
右内告方ニ関シ米國政府ヨリ在本邦同國大使宛

一四「メキシコ」革命動乱一件 二九四

三九八

シツ、アリ就テハ本件速カニ御決定相成ラザレバ他日臆ヲ噬ムノ悔アラシコトヲ深憂シ重ネテ稟請ス(十一月五日後三、三〇)

二九二 十一月七日 在墨國安達公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

「メキシコ」内乱ニ関シ仏國公使來談ノ件

第一一八号

十一月七日「リンド」「ヴェラクルース」ヨリ当地ニ來着セリ此ノ日仏國公使來談(中略)米國官民ノ行動ニヨリ當国内乱益々拡大スルヲ嘆シ日本國ノ此ノ際全然「インデフェレンス」ノ態度ヲ固執シ發言權ヲ喪失セントシツ、アル旨ヲ述ベタルニ付本使ハ本邦ハ墨西哥國ニ於テ政事上竝ニ經濟上ノ重大ナル利害關係ヲ有スルヲ以テ無頓着ナルガ如キコトハ万々無之旨ヲ抗弁シ置キタリ

二九三 十一月九日 在墨國安達公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

十月二十六日ノ墨國選挙無効及ヒ「ウエルタ」

仮大統領留任ニ付「メキシコ」外務大臣ヨリ

外國代表者ニ通告ノ件

訓令ノ件

第二五九号

十一月十日在本邦米國大使來省別電第二六〇号ノ通本國政府ヨリ訓令ニ接シタル旨口頭ヲ以テ帝國政府ニ申入レタリ右貴官ノ御參考マテ通報ス

本電別電ト共ニ在英大使並ニ在墨公使ニ転電シ在英大使ヲシテ在仏在独兩大使ニ転電セシメラレタシ

(別電)

十一月十日牧野外務大臣發珍田大使宛電報第

二六〇号

米國大統領ハ「ウエルタ」墨國仮大統領ノ退

陣ヲ要求スル意向ナル旨日本政府ニ内告方訓

令ノ件

第二六〇号

Please inform His Excellency the Minister for Foreign Affairs that, while the President is not yet in a position to announce his policy with regard to Mexico in detail, he feels that he should confidentially make known to the Imperial Government in advance his clear judgement that it is his immediate duty to require that

三九九

Huerta retire from the Mexican Government and that the American Government must take such measures as may be necessary to secure this result.

Please also inform the Imperial Government that the American Government does not regard the people of Mexico as bound by anything done by Huerta since he assumed dictatorial powers or by anything that may be done by the fraudulent legislature which he intends to convene. The President entertains the hope that the Imperial Government will see fit to exert its influence in impressing upon Huerta the fact that the wisest course for him to pursue will be to retire in the interest of the restoration of peace and constitutional government.

二九五 十一月十二日 齋藤海軍大臣ヨリ
牧野外務大臣宛

軍艦出雲「メキシコ」沿岸派遣ニ関スル上奏
御裁可ノ件

官房機密第六八〇号ノ二 (十一月十二日接受)
大正二年十一月十二日

海軍大臣男爵 齋藤 実(印)

在墨本邦人ノ保護ニ在リテ何等政治上ノ意味ヲ含ムコトナシ万一ノ場合ニ實際何程ノ保護ヲ与ヘ得ルヤハ固ヨリ予測シ得サルモ同国各地ニ散在セル多数本邦人ニ幾分安心ヲ与ヘ咄嗟ノ変ニ応セシメンガ為ニ外ナラサル儀ニシテ從テ「ヴィジット、オブ、コーテシー」等ノ意味ヲ有セザルニ付右特ニ御含アリタシ又前記「サリナ、クルズ」以外ニ貴官ニ於テ適當ト思考セラルル到着港アレハ折返シ至急返電アリタシ

今回ノ軍艦派遣カ本邦人保護ノ外何等他ニ目的ヲ有セサルコトハ誤解ヲ拒クカ為メ在英米独仏帝国大使ヨリ任国政府ニ夫々特ニ申入レ方訓令シタリ右御含マデ

二九七 十一月十二日 牧野外務大臣ヨリ
在墨国安達公使宛(電報)

軍艦出雲派遣ハ在墨本邦人保護ヲ目的トシ他
意無キ件

第三八号
至急

墨国ノ事態ニ関スル屢次ノ貴電ニヨレバ貴官ハ帝国ガ将来墨国ニ於ケル何等カ政治上ノ施設ヲ為サントスルモノナル

一四 「メキシコ」革命動乱一件 二九七

外務大臣男爵 牧野伸顯殿
軍艦発差ノ件

本件ニ関シ別紙ノ通海軍々令部長ヨリ上奏裁可ヲ経タリ右通牒ス
(別紙)

軍艦発差ノ件

佐世保鎮守府警備艦

軍艦 出雲

右居留帝国臣民保護ノ為墨西哥沿岸ヘ派遣セシメラル

二九六 十一月十二日 牧野外務大臣ヨリ
在墨国安達公使宛(電報)

在墨本邦人保護ノ為軍艦出雲派遣ニ関スル件

第三七号
至急

墨国ノ現状ニ鑑ミ軍艦派遣方御稟請ノ件詮議中ノ処帝国政府ニ於テハ今回軍艦出雲ヲ派遣スルコトニ決定シ森山大佐ヲ艦長トシ本省ヨリ埴原書記官及伊藤敬一ヲ塔乗セシメ(本省電信符号携帯)十一月二十日頃本邦発十二月中旬「サリナ、クルズ」著ノ予定ナリ今回ノ軍艦派遣ノ目的ハ全然

カノ如キノ意見ヲ有セラルルヤニ察セラレ軍艦派遣ヲ以テ帝国ガ墨国ノ政治上ニ發言權ヲ得ントスルノ手段ニ供スルコトヲ見込居ラルルヤニモ見受ケラルル現ニ貴電第一一八号末段仏国公使ガ日本国ハ此際全然「インデフェレンス」ノ態度ヲ固執シ發言權ヲ喪失セントシツ、アリト述ベタルニ對シ貴官ハ本邦ハ墨国ニ於テ政事上竝ニ經濟上重大ナル利害關係ヲ有スルヲ以テ無頓著ナルガ如キコトハ万々無之旨説明シ置カレタル趣ノ処今回ノ軍艦派遣ハ往電第三七号ヲ以テ申進タル通り全然在留本邦人ノ保護ヲ目的トシ他ニ何等ノ意味ナク居留本邦人ノ生命財産ノ危害ヲ受クルコトアルベキ万一ノ場合ヲ憂慮シタルニ出デタル措置ニ外ナラズ元来帝国ノ墨国ニ於テ有スル政治上ノ利害ハ殆ント絶無トモ云フベク主タル利害ノ關係ハ經濟上通商上ノモノタルコト御承知ノ通りナリトス從テ変乱ノ場合ニ於テ居留本邦人ノ受クルコトアルベキ生命財産ノ危害ニ對スル予防ノ方法ヲ講ズルコトハ之ヲ等閑ニ附スルヲ得ザルニ付今回軍艦派遣ヲ決シタル次第ナルヲ以テ帝国政府ノ真意ヲ洽ネク中外ニ徹底セシムルコトハ最モ必要ニシテ墨国官叛兩方ニ於テ帝国軍艦派遣ノ事実ヲ以テ各自ノ利益ノ為メニ悪用セシム

ルガ如キコトハ充分ニ之ヲ避ケ度此際何等誤解ノ生ズルヲ防カントスルハ帝國政府ノ深ク注意スル処ナリトス就テハ貴官ハ右篤ト御含ノ上万一斯ル誤解ヲ来サントスル場合ニ於テハ充分ニ之ヲ避ケ帝國ノ立場ヲ明カニスルニ努メラルヘク且此際ニ処スル貴官ノ言動ノ慎重ナルコトヲ要スルハ申ス迄モナキ義ナルニツキ其辺万々御如才ナキコトトハ信ズルモ念ノ為メ右申進ス

二九八 十一月十二日 牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛(電報)

軍艦出雲「メキシコ」派遣ノ目的ニ付任國政府
府へ説明方訓令ノ件

附記一 帝國軍艦「メキシコ」派遣ニ関シ十一月十二日新聞ニ對スル外務省発表

二 「メキシコ」内乱ノ状況ニ付十一月十三日外務省ニ於テ新聞記者ニ為シタル談話

第二六二号
至急

墨國ノ現状ニ鑑ミ帝國政府ニ於テハ今回軍艦出雲ヲ派遣スルコトニ決シ十一月二十日頃本邦発十二月中旬墨國著ノ予定ナリ右派遣ノ目的ハ全然在墨本邦人ノ保護ニ在リテ固ヨ

從事シ深ク内地ニ散在スルモノナリ右在留民ノ保護ニ関シテハ在墨國帝國公使館ニ於テハ万一ノ場合ニ応ズルガ為メ為シ得ル限りノ準備手段ヲ講ジ居レリト雖モ若シ今後不幸ニシテ騷擾増大スル場合ニハ在留帝國臣民ノ被ルコトアルベキ生命財産ノ危険ニ付今ニ於テ之ヲ顧慮スルコト最モ喫緊ノ事ニ属ス依テ政府ニ於テハ今回帝國軍艦出雲ヲ墨國ニ急派スルニ決シタリ

(附記二)

「メキシコ」内乱ノ状況ニ付十一月十三日外務省ニ於テ新聞記者ニ為シタル談話

「ボルフィリオ・デアス」將軍ノ墨國大統領トナリタルハ千八百七十六年(明治九年)ノコトニシテ同將軍ハ爾來其ノ職ヲ繼續シ国内無事ニ治マリシカ明治四十三年暮「デアス」ノ反對黨革命ノ暴動ヲ起シ初メ其ノ勢力微々タリシモ漸時革命軍ノ勢力張レルヲ以テ「デアス」將軍ハ之ト妥協ノ途ニ出デ大統領ノ職ヲ辞シ「マデロ」之ニ代レリ時ニ明治四十四年十一月ナリキ其ノ後暴徒尙各地ニ蜂起シ居タリシカ前大統領「デアス」將軍ノ甥「フェリックス・デアス」將軍ハ昨年十月兵ヲ挙ケテ墨國ノ要港「ヴェラクルズ」ノ

一四「メキシコ」革命動乱一件 二九八

リ何等政治上ノ意味ヲ含ムコトナシ万一ノ場合ニ實際何程マテ居留民保護ノ実ヲ挙ゲ得ルヤハ固ヨリ予測シ得ザルモ同國各地ニ散在セル多数本邦人ニ幾分安心ヲ与ヘ殊ニ安達來電ニヨレハ邦人迫害ヲ受ケタル等ノコトモアリ旁々向後ノ急ニ応ゼシメンコトヲ顧慮シタルニ外ナラザル義ニ付貴任國政府ニ於テ何等誤解ヲ抱カザル様特ニ申入レラレタシ本電本大臣ノ訓令トシテ在英大使ニ転電シ在英大使ヲシテ在仏在独兩大使ニ転電セシメラレタシ

(附記一)

帝國軍艦「メキシコ」派遣ニ関シ十一月十二日新聞ニ對スル外務省発表

帝國政府ハ墨西哥ニ於ケル事態カ一日モ速ニ平穩ニ帰シ内外人共ニ其ノ堵ニ安ズルニ至ランコトヲ冀望スルコト切ナリト雖モ諸方面ノ報道ニ依リ案ズルニ墨國在留帝國臣民ノ生命財産ハ現下ノ状態ニテハ安全ナリトモ認メ難ク現ニ列強中在墨自國人民保護ノ為メ既ニ軍艦ヲ派遣シ又ハ派遣セントスルモノアリ又某國ノ如キハ其ノ在留民ノ保護ヲ他國ニ託スルノ交渉ヲ為シツ、アリ而シテ同國ニ在留セル帝國臣民ハ客年末ノ調査ニ抛ルニ約三千人ニ達シ各般ノ職業ニ

占領ヲ試ミタルニ素志ヲ果スヲ得ズ却ツテ獄ニ投ゼラレタリ其後本年二月九日同將軍ヲ戴キ政府ヲ覆ヘサントスル革命騷動墨西哥市ニ起リ官軍兩軍ノ勝敗未タ決セザルニ当リ同月十八日官軍ノ総指揮官タル「ウエルタ」將軍其ノ部下ヲ率キテ政庁ヲ襲ヒ「マデロ」大統領及内閣員ヲ捕虜トシ「ウエルタ」將軍仮大統領トナレリ「マデロ」前大統領ハ二月二十一日政庁ノ監禁室ヨリ監獄ニ護送セララル、途上「マデロ」党之ヲ奪ヒ返サントシ其ノ争鬭中殺害セラレタリ茲ニ於テ北部ニ於ケル「マデロ」党ハ政府ニ對シ反旗ヲ翻セリ現在墨國ノ擾乱ハ之カ引続ニシテ八月三十日ニ発表セラレタル墨國政府ノ公報ニ依レバ全國三十一州ノ中現ニ叛軍ノ占領中ナルハ「ドウランゴ」ノ全部「ソノラ」ノ殆ト全部「サカテカス」ノ約三分ノ二、「カンペチ」、「コアウエラ」、「ミチョアカン」、「タマウリーパス」ノ各一部ニシテ其ノ他ノ諸州ハ總テ仮政府支配ノ下ニアリト謂フ十月十日「ウエルタ」仮大統領ハ墨國上下兩院ヲ解散シ同月二十六日大統領選挙ト同日ニ新ニ上下兩院議員ノ臨時総選挙ヲ行フ命令ヲ發シタリ是ヨリ先旧「マデロ」党ニ属スル上院議員「ドミンゲス」ナル者失踪セルヨリ十月九日上下兩

四〇三

院ニ於テ問題ヲ惹起シ殊ニ下院ニ於テハ此ノ件ヲ審査スル為メ委員会ヲ組織シ以テ政府ヲ詰問ス可ク尚将来上下両院議員中失踪者ヲ明ニ説明シ能ハサル時ハ議員ハ現政府以外ニ有力ナル生命財産ノ保障ヲ与フル地ニ到リテ開会スヘシトノ決議案ヲ通過セルヲ以テ十月十日内相ハ軍隊ト共ニ下院ニ臨ミ該案ヲ以テ三権分立ノ基礎ヲ破ルモノトシテ其ノ再議ヲ要求シ議院内ノ混雜ニ紛レテ命ヲ軍隊ニ伝ヘ直ニ旧「マデロ」党及独立自由党ニ属スル議員百名ヲ捕ヘテ投獄セリ前記大統領ノ議院解散命令ハ之ト同時ニ発布セラレタルモノナリ越エテ十月二十六日予定ノ如ク大統領ノ選挙ハ行ハレ頗ル静穩ナリシカ是レ政府ノ警戒嚴重ナリシニモヨルベク従来ノ例ニ徴スルモ墨国ニテハ大統領選挙当日ニ擾乱場アリシコトナシト謂フ今回ノ大統領選挙ハ選挙場ノ数カ定規ノ数ニ達セズ全国民ノ意志ヲ表示シ難キヲ以テ新議會ハ之ヲ無効ト宣言スヘキヲ予想セラル、ニ付現仮大統領「ウエルタ」氏ハ議會ノ決定スヘキ新選挙ノ完全ナル自由ト有効トヲ期スルガ為引續キ国内平定事業ニ従事シ依然其ノ職ニ在ル可キ旨ヲ十一月九日外国各代表者ニ声明シタリ是ヨリ先十月二十三日「モンテレイ」市ヲ攻撃シタル北部

有セル本邦人ハ不安ノ状況ニアル由同地ヨリ墨都ニ徒歩シ来レル避難本邦人ヨリ帝国公使ニ報告アリ又「ソノラ」州「ヘルモシヨ」市ニ在留スル百数十名ノ本邦人ハ同市騒乱ノ為メ強竊盜横行シ全ク無政府ノ状態ニ陥リ居ルモ墨都トノ交通杜絶シ通信ノ方法ナキヲ以テ其ノ保護ヲ在桑港帝国総領事ニ稟請セル有様ナリ

（欄外註記）

「十一月十三日夕各社員ニ談話シ且本件ハ外務省ヨリ公表スルニアラス各社ノ参考ニ過キササル旨篤ト注意シ置ケリ」

二九八 十一月十二日 在墨国安達公使ヨリ
牧野外務大臣宛（電報）

軍艦「メキシコ」派遣ハ在墨本邦人保護ヲ目的トシ他意無キ旨ノ訓電ニ関スル件

第一二五号

貴電第三八号縷々御訓示感佩ニ耐ヘス拙電第一一八号中本使カ仏国公使ニ答ヘテ本邦ハ墨西哥国ニ於テ政治上並ニ經濟上重大ナル（貴電第三一号首段渺カラザルノ一語ニ対シ適切ノ仏語思付カサリシニヨリ輕ク Considerable ト云ヒタリ）利害關係ヲ有ス云々ト述べタルハ決シテ帝國政府ガ

一四 「メキシコ」革命動乱一件 二九九 三〇〇

革命軍ハ官軍ノ為メニ撃退セラレタルモ叛徒ハ更ニ南方「リナレス」迄ヲ占領シ内乱益々猖獗ヲ極メ其ノ区域ハ愈々拡張シ「マサトラン」附近ノ官軍ハ五百名ニ過キササルニ叛軍ハ三千名ニ達シ「サカテカス」市亦十一月三日叛軍ノ攻撃ヲ受ケ「トレオン」市ハ其ノ占領スル所トナリ盜魁「ザパタ」ノ与党ハ各地ニ掠奪ヲ擅ニシ十月二十七日ニハ墨市附近ノ要害地方ニ千余名ノ大集団現ハレ村落ノ焼カレタルモノ渺ラス而シテ最近安達公使ヨリノ報告ニヨレハ北部叛軍ノ勢力圈内ニ在ル同胞ノ消息ハ交通機關杜絶ノ為メ之ヲ知ルコト能ハス「ソノラ」、「チウアウア」方面在留本邦人ノ消息亦不明ナリ「シナロア」州「クリアカン」ニ在ル同胞ハ十月上旬賊軍ニ襲撃セラレ正当防衛ノ為賊一名ヲ傷ケタルヲ以テ其復仇ヲ恐レ在墨帝國公使ニ保護ヲ求めメレルヲ以テ安達公使ハ直ニ墨国外務大臣ニ照会シ該地方文武官憲ノ保護ヲ求めタルモ其後該地方ノ騒乱激甚ナルカ為メ一切ノ通信杜絶シ帝國公使館ヨリ種々ノ方法ヲ以テ發シタル数度ノ通信ニ對シテ何等回答ヲ得ルコト能ハス「デピク」州「アカボネタ」地方ノ如キハ北部地方目下騒乱ノ中心ヲ距ルコト遠キニ拘ハラズ叛軍出沒シ該地方ニ農園ヲ所

墨国ノ政治上ニ發言權ヲ得ントスル主旨ヲ有セララルモノト思考シタルヨリ出デタル次第ニ無之單ニ当国ノ險惡ナル時局ニ無頓着ナラザルヲ明白ニセントシタルノミニテ仏国公使ニ於テモ誤解ナシ尚此「デリケート」ナル時局ニ際会シ本使ニ於テ御訓示ノ趣旨ヲ体シ極メテ言動ヲ慎ミ決シテ累ヲ帝國政府ニ及ボサザルベキコトニ関シテモ御安心ヲ仰ク（十一月十二日午後四時三十分）

三〇〇 十一月十三日 在墨国安達公使ヨリ
牧野外務大臣宛（電報）

軍艦派遣ニ付「メキシコ」外相ニ通報並米國特使「リンド」ノ「メキシコ」市來著ノ目的ニ関スル件

第一二七号

拙電第一二四号ニ関シ十一月十二日外務大臣ニ面会スルヲ得ザリシニ付私信ヲ以テ “to give some comfort to Japanese subjects in the various regions ravaged by rebels” (原文仏文) ノ為軍艦出雲ヲ派遣スルコトニ決定シ十二月中旬墨国領水ニ來ル予定ナルガ到着港其他細目ハ未定ナル旨ヲ通報シ置キタルニ同大臣ハ今朝來訪右ニ対ス

ル挨拶ヲ述べ艦長以下首府ニモ来ルコトヲ得交驩ノ余暇アラシコトヲ望ム旨申添ヘラレタリ次ニ「リンド」ハ十一月十二日「ヴェラクルス」ニ向ケ当地ヲ出発シタルニ付之ニ談及シ其当地ニ来リタル目的ヲ尋ネタルニ同大臣ハ墨国政府ノ官吏中直接ニ同人ト会谈若ハ通信シタルコトナキモ墨国政府カ到底承諾シ得ザル或要求ヲ大統領ニ提出シタルコトヲ聞ケリト答ヘラレタルガ他ノ情報ニ依レハ「リンド」ハ当地滞在中「ウェルタ」ノ後任者トシテ一二ノ人物ヲ「ヒント」シ不成功ニ終リタルガ如シ又十一月十三日田辺ヲ米国大使館ニ遣ハシ軍艦派遣ノコトヲ通知セシメタルニ代理大使ハ右ノ通知ヲ謝スルト同時ニ外国軍艦ノ多ク来ルコトハ在留外国人ヲ気強クナラシメ且墨国人ヲシテ益外国人ヲ畏敬セシムル効果アルヲ喜ブト挨拶シ次ニ時局ニ関スル雑談中同代理大使ノ田辺ニ告ケタル要点左ノ如シ此度「リンド」ノ墨国政府ニナシタル要求ハ不法ニ選挙セラレタル新議會ヲ解散セヨト云フニアリシガ結局大統領ヨリ何等回答ヲ得ズシテ去リタリ米国政府ハ多分北部叛徒ニ武器及軍用金ヲ供給シ「ウェルタ」政府ヲ倒ス策ヲ執ルコトトナルヘク米国大使館モ或ハ撤退セラルルコトトナルヤモ難

対スル英外相ノ回答通報及我方ノ回答問合ノ件

Sir Conyngham Greene presents his compliments to Baron Makino and has the honour to inform His Excellency that he has received the following telegram from Sir Edward Grey:—

“I have telegraphed as follows to the British Ambassador at Washington:—

10. 11. 1913

“In reply to the United States Ambassador's communication about Mexico I have said that we should not in any circumstances intervene in Mexico and there could be no question of our supporting Huerta against the United States, but our rule as regards mediation has been not to undertake it unless requested by both parties. I said also that I had promised to let certain other Powers, such as the French and German Governments, know what our attitude would be and I would consult them.

“The United States Ambassador pressed me as to whether there was anything more that I thought could be done, and, in reply to some remarks of mine, said

計云々当地万一ノ事変発生ノ場合ニハ居留民中ヨリ義勇兵ヲ募集スルノ準備ヲ整ヘ居レルニ付軍銃五十挺彈藥五千發其筋ニ御請求ノ上軍艦便ニテ御送付アリタシ

三〇一 十一月十三日

財部海軍次官ヨリ
松井外務次官宛

軍艦出雲ヲ「メキシコ」沿岸ニ派遣ノ件

官房第三〇五八号

(十一月十四日接受)

大正二年十一月十三日

海軍次官 財 部

彪(印)

外務次官 松井慶四郎殿

軍艦出雲ハ警備艦ト定メ居留帝国臣民保護ノ為メ墨西哥沿岸ニ派遣セシメラレ本月二十日頃横須賀発任地ニ回航ノ筈ニ有之候

艦長 海軍大佐 森山慶三郎

副長 海軍中佐 増田 幸一

右通牒ス

三〇二 十一月十三日

在本邦英国大使ヨリ
牧野外務大臣宛

「メキシコ」政局ニ関スル米国政府ノ申入ニ

“that he knew that the President of the United States wished to find some way by which Huerta could retire with dignity and thought the United States Government would be prepared to discuss the conditions of his retirement and the form of Government that the United States Government would recognize after he retired.
“I said that if Huerta wished to discuss such arrangements other Powers might possibly be of use as intermediaries, and that was a point on which I would consult them.”

Sir C. Greene is instructed to inform Baron Makino of the above, and to ask His Excellency what his views are, and what reply he is making to the United States Government.

(欄外註記)

「十一月十三日英大使来省大臣へ手交ノ上意見ヲ求ム」
尚右文書ノ最後ヨリ第三番目ノ「パラグラフ」ニ於ケル「アザ・ハ・ヌーズ」ニ関シ「仏、独、伊、西及日本」ノ註記アリ

三〇三 十一月十四日

牧野外務大臣ヨリ
在英国外務大臣宛(電報)

「メキシコ」政局ニ関スル在本邦英国大使ノ

申出及我方ノ回答通報ノ件

第一八一号

十一月十三日在本邦英国大使来省英国外務大臣ヨリ別電第一八二号ノ如キ電報ニ接シタルニ付右ニ対スル本大臣ノ意見ヲ承知シタキ由申出タリ依テ本大臣ハ(一) In reply ヨリ against the United States ヲテハ帝国政府ニ於テ全然同感ナル旨ヲ答ヘ(二) but our rule ヨリ以下仲介ニ関スル点ニ付テハ日本政府ノ関知セザル所ナルヲ以テ別ニ何等意見ヲ附セス(三) The United States Ambassador pressed me 以下ニ付テハ帝国政府ハ未タ何等意見ヲ定ムルニ至ラズ本件ニ関スル重要利害関係国ノ意嚮問合中ナル旨答ヘ置キタリ右御含マテ申進ス

本電在仏在独兩大使ヘ別電ト共ニ転電アリタシ

註 本件ハ十一月十四日在米珍田大使宛第二六七号ヲ以テ電報

シ且在墨公使ヘ転電セシメタリ

別電ハ前出在本邦英大使ヨリ十一月十三日外務大臣ニ手交ノ覚書中第二ノ「パラグラフ」I have telegraphed ヨリ引用符号ノ終ル最後ノ I would consult them 迄ナリ

三〇四 十一月十四日

在墨国安達公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

帝国軍艦「メキシコ」派遣ニ関シ「メキシコ」

三〇五 十一月十七日

齋藤海軍大臣ヨリ
牧野外務大臣宛

「メキシコ」沿岸ニ派遣ノ軍艦出雲ノ警備任

務遂行ニ関スル件

官房機密第六九二号ノ二

(十一月十八日接受)

大正二年十一月十七日

海軍大臣男爵 齋 藤

実(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

本件ニ関シ出雲艦長ニ左記ノ通訓令候条御承知相成度右通牒ス

左記

其艦帝国居留民保護ノ為墨西哥沿岸ニ派遣中警備任務ノ遂行ニ関シテハ左ノ諸項ニ拠ルヘシ

一、今回其艦派遣ノ目的ハ在墨西哥国帝国臣民保護ノ任務ニ当ルニ在リ從テ其艦ノ行動ハ嚴ニ此目的ノ範圍ヲ逸セサルコトニ注意シ貴官ハ部下士官ヲ始メ下士卒ヲ戒飭シ能ク帝国政府ノ方針ノアル所ヲ体セシムヘシ

二、其艦派遣中ノ行動ハ帝国政府ノ外交ニ影響ヲ及ホスコト最モ大ナルヲ以テ墨西哥国駐劄帝国公使及其艦便乗ノ

一四「メキシコ」革命動乱一件 三〇五

新聞論調報告ノ件

第一二九号

十一月十四日朝当地新聞ハ皆帝国軍艦派遣ノ記事ヲ掲ケタルカ派遣ノ目的ニ関シテハ不幸ノ日本人ヲ慰安保護スル為メトナシタルモノモアレトモ多クハ種々ノ註釈ヲ加ヘ或ハ「ヴィジット、オフ、コーテシー」トナシ或ハ十一月十二日「デ、ラ、バラ」随員出發ヲ聯想シテ墨西哥国使節派遣ニ答フル特別使命ヲ帶フトナスカ如キ要スルニ墨西哥国ニ対スル「ホステイリティー」ニアラサルコトヲ記載シタル後日墨兩國ノ親交ヲ深クスルト云フ如キ傾向アル文字ヲ附記セルモノアリ甚シキハ本使自ラ墨西哥国外務省ニ出頭大臣ニ対シ斯ノ如ク註釈シテ語レリト墨西哥国外務省ヨリ出デタリト称スル記事モ有之米国新聞通信員等之ヲ種子トシテ種々ノ訛伝ヲ為ス虞モ有之由來墨西哥国ニ於テハ外務大臣自ラ外国代表者トノ交渉ヲ新聞記者ニ誤伝スルコト屢々有之予テ同僚公使連ノ不平トスル所ナルモノ一々直チニ抗議ヲ申込ムハ事ヲ荒立テ大局上大ニ不得策ナリトシテ其儘ニ差措ク實際ナレハ本使モ今朝ノ諸新聞記事ニ関シテハ最近ノ好機ヲ捉ヘ適切ナル措置ヲ執ル等ナリ為念申進ス

外務省派遣員ト氣脈ヲ通シ遺憾ナカラシムルヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ事重大ナルモノアルトキハ速ニ本大臣

ニ請訓スヘシ

三、墨西哥国内乱ニ関シテハ嚴ニ不偏不党ノ態度ヲ持シ苟

モ其内事ニ干与スルノ嫌疑ヲ招クコトナキヲ要ス

四、墨西哥国ト第三国殊ニ北米合衆国トノ關係ハ最モ複雑

ニシテ且機微ニ亘ルモノアルヲ以テ貴官ハ断シテ此等政

治上ノ問題ニ立入ルコトヲ避ケ飽マテ中立ノ態度ヲ採リ

苟モ一方ニ加担シ又ハ之ヲ援助スベカラザルハ勿論其嫌

疑ヲ招クガ如キ行動ヲ為スベカラス

五、在墨西哥国帝国臣民ハ各所ニ散在スルヲ以テ総テ之ヲ

保護スルハ事実上不可能ナリト雖貴官ハ予メ帝国公使及

外務省派遣員ト協議ノ上内乱ノ慘禍居留民所在地方ニ波

及スル場合ニ対スル保護ノ方法ヲ出来得ル限り講究シ置

クヘシ尤モ右保護ノ方法ニ付テハ必要ト認ムルトキハ当

該帝国居留民ノ意見ヲモ参酌スルハ差支ナシ

前項保護ノ方法ニ付テハ事情ノ許ス限り成ルベク帝国居

留民ヲシテ騒乱地方ヲ退去セシムルノ手段ニ出ヅルヲ適

当トスベク陸戦隊ノ揚陸ハ成ルヘク之ヲ避クルヲ要ス但

左ノ場合ハ此限ニ在ラズ

(一) 帝國公使又ハ外務省派遣員ヨリ陸戦隊揚陸ノ要求アルトキハ貴官ハ之ニ応ズルコトニ努ムヘシ

(二) 騒乱突発等ノ為前記予定ノ保護方法ニ依ルヲ得ザル場合ニ於テ帝國居留民ニ対シ害ヲ加ヘ又ハ掠奪セントスル者アルトキハ貴官ハ先ヅ当該地方ノ実権者ニ交渉スル等之ヲ防止スル為必要ナル手段ヲ執ルベク事重大ナル場合ニ於テハ帝國公使又ハ外務省派遣員ニ協議ノ上陸戦隊ヲ揚陸セシメ以テ帝國居留民ノ保護ニ当ラシムルコトヲ得

六、帝國政府ノ方針ハ墨西哥国内乱ニ関シ同国及第三国トノ紛糾ヲ惹起スヘキ事件ニ干与セザルニ在ルヲ以テ貴官ハ同国内乱ニ関係アル者カ危急ノ難ヲ避ケントスル場合ニ於テハ其艦ニ避難スルコトヲ避ケシムルニ努ムヘク又万已ムヲ得ザル事情アル場合ノ外軍艦外務令第二十七条ノ規定ヲ適用スルコトナキヲ要ス已ムヲ得ザル場合ニ於テ軍艦外務令第二十七条ノ規定ヲ適用スルニ当リテハ予メ帝國公使又ハ外務省派遣員ト協議スヘシ

七、墨西哥国内乱ニ関係アル一方ノ党派カ既ニ現実ニ其ノ

御心得可相成候

一今回帝國軍艦出雲ヲ墨西哥国沿岸ニ派遣スル事ニ決シタルハ同国現時ノ事態ニ鑑ミ同国在留帝國臣民ノ生命財産ヲ保護シ万一ノ事変ニ備フルガ為メ外ナラザルヲ以テ貴官ハ特ニ右ノ趣旨ヲ体シ苟モ外間ノ誤解ヲ惹起スルノ虞アルガ如キ言動ハ深ク之ヲ慎マルルト同時ニ万一斯ル誤解ヲ有スルモノアルニ於テハ臨機之ヲ訂タスカ為メニ相当ノ措置ヲ取ラルヘシ

二貴官ハ特別ノ場合ヲ除ク外主トシテ艦内ニ在リテ万事篤ト出雲艦長ト協議ヲ遂ケ在墨帝國公使ト氣脈ヲ通シ在留帝國臣民保護ノ目的ヲ達スルニ付万遺漏ナキヲ期セラルヘシ

三墨西哥国地方官憲ト交渉ヲ為スノ必要アルトキハ在墨帝國公使ヲ経ルヲ要スルハ勿論ナレトモ已ヲ得サル場合ニ於テハ出雲艦長ト協議シ同艦長ノ名ニ於テ之ヲ為ス儀ト心得ラルヘシ

四在墨帝國公使ト貴官トノ間ニ交通杜絶シタル場合ニ於テ急速処分ヲ要スル事件発生シ帝國臣民ノ保護上若クハ帝國外交上事重大ナルモノアリト認メタルトキハ其ノ処分

権下ニ置キタル地方ニ於テハ帝國政府ニ於テ未タ該党派ヲ交戦団体等ト認メザル場合ニ在リテモ貴官ハ帝國居留民及其ノ財産ノ保護ニ関シテハ必要ニ応ジ該地方行政ニ関スル責任者ト事実上ニ於テ直接交渉スルコトヲ得但シ右直接交渉ヲ為スニ当リテハ法律上帝國政府ニ於テ該党派ノ政權ヲ認ムルガ如キ態度ヲ避クルヲ要ス

八、墨西哥国一般及局部ノ事情、同国ト外国トノ関係、同国ニ対スル諸外国ノ行動特ニ陸海軍軍隊艦船ノ来往ニ注意シ其ノ重要ナルモノハ見聞スル毎ニ報告スヘシ

九、前諸号ノ外尚軍艦外務令ヲ遵守スヘシ
右訓令ス

(終)

三〇六 十一月十八日

牧野外務大臣ヨリ
埴原外務書記官宛

軍艦出雲ニ搭乘「メキシコ」出張ノ埴原外務

書記官ニ対シ内訓ノ件

機密

外務書記官 埴原正直

今般軍艦出雲ニ搭乘墨西哥国ニ出張ヲ命シタルニ付左ノ通

方ニ関シ速ニ本大臣ニ請訓セラルヘシ但シ緊急已ヲ得ザル場合ニ於テ請訓ノ暇ナキトキハ貴官ハ出雲艦長ト協議ノ上之ヲ專行シ直ニ電報セラルヘシ

貴官ハ帝國臣民ノ保護上必要ナル場合ニ於テハ在桑港帝國総領事等ト直接ニ交通セラレ妨ナシ

五貴官ハ単独ニ又ハ出雲艦長ト共同シテ隨時報告ヲ提出セラルヘシ

六貴官ニ対シ別封ノ通旅券用紙二十枚ヲ交付スルニ依リ帝國軍艦出雲乗組員ガ墨国内地旅行ノ為メ必要ナル場合ニ限り適宜須要ノ事項ヲ記入シ貴官ヨリ發給セラルヘク本人ニ於テ用済ノ上ハ直ニ貴官ニ返納セシメラルヘシ

前項旅券ノ出納ニ関シテハ原簿ヲ作り旅券記載ノ事項ニ照シ一々之ヲ記入シ置キ帰朝復命ノ際右原簿ヲ不用旅券、返納旅券ト共ニ之ヲ本大臣ニ提出セラルヘシ

七貴官ノ用務ヲ補助スル為メ外務書記生伊藤敬一ヲ貴官ニ附属セシム

八右ノ外貴官ハ別紙出雲艦長ニ対シ海軍大臣ヨリ与ヘラレタル訓令ノ趣旨ニ從ヒ行動セラルヘシ

右及内訓候也

大正二年十一月十八日

外務大臣男爵 牧野伸顯

註 別紙(海軍大臣ヨリ出雲艦長ニ与ヘタル訓令) 前出ニ付省
略ス

三〇七 十一月二十一日 牧野外務大臣ヨリ
在ホノルル永滝総領事宛(電報)

軍艦出雲行動予定電報ノ件

第二二号

軍艦出雲行動予定次ノ通変更十二月五日ホノルル着九日同
地発○十二月二十三日マンザニヨ著同日同地発○十二月二
十五日アカバルコ著二十九日同地発○一月一日マザトラン
著

尤モ「マンザニヨ」以後ノ予定ハ石炭搭載ノ都合ニヨリ自
然変更アルベキニヨリ新聞等ニハ単ニ「マンザニヨ」ヲ経
テ「マザトラン」ニ到ル予定ナリト公表シアリ

本電沼野ニ転電シ沼野ヨリ珍田大使及在米各領事官(名譽
領事官ヲ除ク)ニ転電セシメラレタシ

三〇八 十一月二十二日 牧野外務大臣ヨリ
在墨国安達公使宛(電報)

貴電第五〇号所載ノ四点別電第一四六号平文ニテ申報ス

(別電)

十一月二十二日安達公使発牧野外務大臣宛来

電

「メキシコ」ノ時局ニ関スル訓令事項ニ付回

電ノ件

第一四六号 別電

(一) 大統領選挙ノ結果ハ新議會ニ於テ不日正式ニ審査決定
スル筈ナリ尤其無効ト宣言セラルベク予想セラル、ハ往
電第一二〇号中既報ノ如シ

(二) 大統領教書ノ要領ハ旧議會解散ノ理由トシテ旧議會ノ
大部分ガ北方ノ叛徒ト款ヲ通ジ舊ニ司法權ノ範圍ヲ侵ス
行為アリタルノミナラズ進ンデ行政府ニモ干涉シテ叛徒
ヲ援助スルニ至リ三權ノ調和全ク破レントスルノ点ニ達
セル次第ヲ詳述シ政府ハ議會ヲ煽動の野心家ノ巢窟トシ
国家ヲ無政府ノ状態ニ放任スルヨリモ国家ノ為暫ク議會
ヲ解散シテ新議員ヲ召集スルヲ以テ国家ノ政治的秩序ヲ
保ツ所以ナリト信ジタルニ依ルト為シ「ボナパート」ノ
国家ヲ救フハ法ヲ破ルニ非ズトノ言ヲ援キ之レ墨国ニハ

一四「メキシコ」革命動乱一件 三〇九

墨国ノ時局ニ関スル諸事實電報方訓令ノ件

第五〇号

墨国ノ時局ニ関スル当地着ノ新聞電報近來著ルシク増加シ
タル処其ノ報告互ニ矛盾スルモノアリ旁々当省ニ公報ヲ求
メ来ルモノ多シ当省ニ於テハ事實ノ報道ハ可成公表スル方
針ナルノミナラス貴官ヨリノ正確ナル報告ヲ得ルコトハ最
モ必要ナリトス就テハ差当リ次ノ諸件電報アリタシ(一)大統
領選挙ハ如何ニ決定シタルヤ(二)貴電一四一号教書ノ要点(三)
米墨国境ニ於テ墨米兩軍間ニ行違アリシトノ報アリ事實ナ
リヤ其他之ニ類スル事項(四)目下墨国東西兩岸ニ派遣セラレ
居ル各国軍艦ノ碇泊港其ノ隻数等

右ノ外政界ノ大局ニ関係アル事實ハ隨時電報アリタシ
東京朝日ハ今回貴地ニ電報通信員ヲ設ケ数日前ヨリ其ノ發
電ヲ掲載シ居レリ御参考マテ

三〇九 十一月二十二日 在墨国安達公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

墨国ノ時局ニ関スル訓令事項ニ付回電ノ件

別電 同日安達公使発牧野外務大臣宛来電第一四六号

第一四五号

「ジュアレズ」時代ニモ先例アリタルコトニシテ既ニ立
法府ナキヨリ已ムヲ得ズ軍務大蔵内務三省關係事務限リ
特別ノ權能トシテ大統領令ヲ發シタル次第ニシテ右特別
ノ權能ヲ危急已ムヲ得ザル該三省ノ事務ニ限リ他ニ及ボ
サザリシハ本大統領ノ特ニ用キタル所ニシテ新議員
諸君ノ諒セラル、所ナルベク新議員諸君ハ政府ノ行ヒシ
所ヲ審査シ適當ナル承認ヲ与ヘラル、コトヲ希望スト述
ヘ最後ニ墨国ガ飽迄國民制ヲ固守シテ国家ノ威嚴ヲ保ツ
モ保タザルモノニ今日ニ在リ新議員諸君ノ責ヤ大ナリト
テ激励セル後各派ヲ聯合シテ国家ノ平和ヲ再建スルノ事
業ニ新議員諸君ト共ニ從事セントシテ結ヘリ

(三) 米墨国境ニテ米墨兩軍ノ間ニ行違アリシトノ新聞電報
ニ付テハ当地陸軍次官ノ語ル所ニ依レハ何等公報ナシ右
ハ恐ラク北米側ノ捏造ニ係ルモノナルベク米國士官二名
墨国内ニテ殺害セラレタリトノ報道ハ事實決シテ有リ得
ベカラズトノコトナリ

(四) 目下墨国太平洋岸ニ派遣セラレ居ル外国軍艦ハ、米國
「メリーランド」「カリフォルニア」二隻ハ「マザトラ
ン」「アナポリス」ハ「ラパズ」(下加州)「ダコタ」ハ

Guaymas 「デンヴァー」 Pishillique (下加州)、独逸国「ネルンベルグ」ハ「マザトラン」ニ碇泊中ナリ墨国大西洋岸ニハ米国「ニュージャーシー」「ヴァージニア」「ロードアイランド」「タコマ」「チェスター」「ミシガン」六隻ハ「ヴェラクルズ」ニ「ネブラスカ」「ホウイーリング」「ミネソタ」三隻ハ「タムピコ」ニ「ルイジアナ」「ニューハムプシア」二隻ハ「タックスバン」(「ヴェラクルズ」州) 仏国 Condé ハ「ヴェラクルズ」独逸国 Hertha 「ブレーメン」二隻ハ「ヴェラクルズ」ニ碇泊中ナリ尚英国ハ西印度艦隊ヨリ「サッフオーク」及 Berwick ヲ特派シ前者ハ「タムピコ」ニ後者ハ「ブエルト、メキシコ」ニ何レモ十一月二十六日頃到着ノ筈又太平洋岸ニ於テハ Shearwater 及 Algerine 二隻ハ北方ヨリ通常巡航ノ途次墨国諸港湾ニ立寄ル筈ニテ其内一隻ハ多分十一月内ニ「マザトラン」ニ寄港スベシトノコトナリ伊国軍艦 Percio 不日大西洋岸ニ到着ノ由当地新聞ニ見ユルモ未タ確ナラス

三三〇 十一月二十二日

在墨国安達公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

合ニ備フル為当国政府ニ関係ナク特別ニ当首府ヨリ海岸ニ至ル迄無線電信ヲ設置スル案ヲ攻究シツ、アリ若シ英国ノ仲介ニシテ奏効セズトセハ米国兵ノ上陸ヲ見ルニ至ルベク然ラザルモ時局益々紛糾遂ニ当国現政府ノ顛覆トナリ現首府ハ外部トノ交通全ク杜絶スルニ至ルヤモ難計ニ付(一)現仮政府顛覆之ニ代ル執権者ニ対スル承認問題ハ後日ニ留保スヘキモ差当り事実上ノ政府トシテ之ニ交渉スルハ差支ナキコトト信ス但本年二月二十一日「ウェルタ」仮政府ニ対シ外交官一同ノナシタル祝辞(本年機密第二号)ハ承認ヲ意味スルモノトノ世評ヲ招キタルコトハ當時ノ外交団長米国大使ノ辭職理由宣言書中ニモアリ(在シヤトル領事ヨリ貴大臣宛新聞切抜参照)穩カナラズト思考セラルルニ付若シ祝辭ヲ呈スルノ議外交官會議ニ上ラバ本使ハ反対スベキモ同會議ニ於テ之ハ承認ヲ意味セズト議決セバ之ニ従フノ外ナカルベク又議會ニ於ケル仮大統領ノ宣誓式若ハ公式披露会等大礼服用出席スル様招待セラルル場合等ニ於テハ承認ノ意味ヲ有セザルモノトシテ之ニ出席シ差支ナシト存ズ如何取計可然ヤ

(二)現仮政府尚其權アリト主張シ米国代表者秩序維持ノ任ニ

小銃百挺「ニューヨーク」ニテ購入ニ付其軼送ニ関シ米国政府ノ了解付方方在米珍田大使ヘ依頼ノ件

第一四八号

在米大使ヘ左ノ通

万一ノ場合ニ応ゼラルル様ノ防禦方法ニ関シ公使會議開催中ノ処在留日本人用小銃当地ニ於テ買取ルコト不可能ナルニ付独逸国公使ガ紐育「マートクト、エント、シェフリエール」ニ武器注文ノ序ヲ利用シ小銃百挺彈藥壹万發ヲ注文スルコトナシ其輸入方ニ関シ当国外務大臣ノ同意ヲ得タリ就テハ御面倒ナガラ右墨西哥國ヘ転出方ニ関シ米国政府ノ同意ヲ得ル様御斡旋相成タク本件ニ付テハ在米独逸国大使ニ於テ同様ノ請求ヲ米国政府ニ為ス筈為念申添ユ

三一 十一月二十八日

在墨国安達公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

「メキシコ」政変發生ノ場合ニ於ケル措置振ニ付請訓ノ件

第一六五号

当国ノ形勢益々切迫シ同僚中当国内地電信切断セラルル場

当ルト通牒シ来ルカ又ハ当国内ノ革命軍来リテ別ニ仮政府ヲ建設シタリト通牒シ来ル場合ニハ此兩者若クハ三者ニ対シ各其実力ノ及ブ範圍内ノ事項ニシテ緊要已ムヲ得ザルモノニ関シ交渉スルコトシテ可然ヤ(陰謀ノ危険ハ由來墨国政変ニ伴フヲ常トスルヲ以テ同一首府内ニ於テモ此事起ルヲ予想シ置ク必要アリ)(三)前項ニ記載ノ兩者又ハ三者ヨリ互ニ取次若クハ仲介ヲ本使ニ求メ来レル場合ニハ其事柄ノ性質ニ依リ本使一己人ノ資格ヲ以テ之ヲ承諾シ可然ヤ(本年二月革命米国大使ニ関シテ其例アリ「ウェルタ」近來本使ニ対スル態度ヨリ察スルニ必無ヲ保シ難シ)(四)政変發生セハ墨国人ハ素ヨリ其他ノ外国人避難ヲ当館ニ求メ来ルベキモ本使ハ日本人以外ノ避難者ヲ出来得ル丈ケ拒絕スル考ニテ予メ館門ノ設備其他ヲナシ居レリ但現大統領外務大臣又其家族等ガ不意ニ館内ニ入り来リタル場合ニハ篤ト其避難所トナシ得サル事情ヲ説キ聞カスベキモ尚聞カザルトキ力ヲ用ヒテ之ヲ門外ニ立退カシムレバ見ス見ス生命ヲ危険ニ陥ラシムル場合ニハ嚴重ニ政事上ノ行動ヲ執リ得ザル様ノ処置ヲ施シ当館ニ一時止メ置クノ外ナシト存ズルガ如何取計可然ヤ尤モ斯ノ如キ避難者ヲ保護スルガ為當館ニ

危険ヲ及ボス虞アル場合ニハ其ノ保護ヲ断然拒絶若クハ退去セシムベキハ勿論ナリ以上ノ四項詳細ノ御訓示ヲ仰ギタシ右等諸項ハ予テ書面ヲ以テ請訓致シタク存ジ居タリシモ著任以来ノ多忙御想像ノ余リ本意ヲ果シ兼タル段不悪御了承アリタシ尚上記事項ノ外御心附ノ点アラバ併テ御教示ヲ得ハ幸甚

註 右電報ノ前半ハ十一月二十八日(午後十時三十分)ニ發送セラレタルモ後半(以下ハ二十九日(午前十一時)ニ發送セラレタリ

三一二 十二月二日 牧野外務大臣ヨリ
在墨国安達公使宛(電報)

「メキシコ」政変發生ノ場合ニ関スル心得ニ
付回訓ノ件

第五八号

貴電第一六五号ニ関シ左ノ通御心得アリタシ
(一)前段即チ事実上ノ政府ト交渉スル件ハ貴見ノ通り後段外交団會議ノ決議ニ従フ場合ハ各国代表者ニ於テモ夫々本国政府ノ訓令ノ下ニ行動スルコトト察セララルニ付貴官ハ本国政府ニ請訓スルコトヲ提議セラレ各場合ニ付御見込ヲ附

第一九〇号

墨国事態ノ最近ノ形勢ニ依レハ「マザトラン」及「タンピコ」ニ在ル日本人ノ保護ハ急務ニ属スル処在墨公使館ニ於テハ之ヲ有効ニ保護スル手段ナキノミナラス今後ノ形勢ニ依リテハ各地ニ散在セル本邦人實際ノ危害ニ瀕スル場合ニ於ケル措置ニ付安達公使ヨリ稟請アリタル処万一ノ場合ニ於テ安達公使又ハ在留本邦人ヨリ臨機保護方英国領事又ハ英国軍艦ニ申出デタルトキハ之ニ応ズル様貴任国政府ヨリ当該官ニ相当訓令アル様致度シ就テハ貴官ハ右責任国政府ニ御申入相成其ノ結果安達及当方ニ電報アリタシ

三一四 十二月八日 在英國井上大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

英国ノ領事又ハ軍艦ニ依ル「メキシコ」在留
本邦人ノ保護方ニ関スル件

第一八一号

貴電第一九〇号ニ関シ十二月八日外務次官補Pageetニ面会御訓令ノ趣申入タルニ早速当該官憲ニ必要ノ訓令ヲ発スヘシトノコトナリ尚同官ハ墨国ニ於ケル形勢益々不穩ニシテ英国人モ多数各地ニ散在シ實際危害ノ場合ナシトセザルヲ

シ一応請訓アリタシ尤モ緊急不得已場合ニ於テハ貴官專行ノ上直ニ電報セラレタシ

(三)斯ル交渉ハ一時的ノ事件ニ関スルコトナリト察セラルルモ若シ帝國政府ノ外交方針又ハ帝國政府ヲ将来ニ羈束スル等ノ事項ニ関スルトキハ請訓ノ上御措置可相成ハ勿論ナレドモ緊急ノ場合ニ於テハ政府ノ訓令ヲ留保シテ一時的ノ措弁ヲ為サルベシ

(四)單純ナル取次ナルニ於テハ貴官限り適宜御措置相成差支ナシ又仲介ハ常ニ「デリケート」ノ事項ヲ含ムニ付一応請訓ノ上御措置アリタシ往電第四六号参照アレ

(四)貴見ノ通

右ハ貴電ニ対シ御心得マテ大体ノ回訓ナレトモ御列挙ノ如キ場合ノ現実スルニハ其前種々形勢ノ変化モアルヘキニ付特定ノ場合ニ関シテハ今後ノ決定ニ譲ルコトト致シタシ

三二三 十二月六日 牧野外務大臣ヨリ
在英國井上大使宛(電報)

「メキシコ」在留本邦人危急ノ際英国ノ領事
又ハ軍艦ノ保護ヲ受ケタキ旨英国政府ヘ申入
方訓令ノ件

以テ万一ノ場合ニ処スル為在墨英国公使ハ既ニ在留英国臣民ニ対シ必要ノ警告ヲ与ヘタル筈ナリ併シ国内ノ交通不便ノ国ナレハ其生命財産ヲ有効ニ保護スルハ随分至難ノ事ナリト思考スル旨ヲ附言シタリ
安達電報濟

(露都發十二月九日後一、〇第二八八号)

三一五 十二月十四日 在墨国安達公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

国内平定ノ状況ニ関シ一独逸新聞ノ質問ニ対
シ「メキシコ」大統領ノ与ヘタル答書公表ノ
件

第一九〇号

十二月十三日墨国大統領カ「フランクフルト、ツァイツング」通信員ノ質問ニ対スル答書公表セラレタリ要領左ノ如シ
予施政ノ初メ国庫ニ一錢ノ剰余ヲ有セサリシニ爾來專心国内平定ニ従事シ既ニ二十二州三直隸領一直隸州ノ平和ヲ見ルモ五州ハ尚然ラズ去レトモ軍隊ヲ十五万人ニ増スコトハ既ニ議會ノ承認ヲ得目下実行中ナルヲ以テ来年元旦以後ハ

必ス全部平定スヘシ政府ハ右ノ外各地方団体ニ千人宛ノ兵員ヲ蓄ヘ又五万二千ノ農園主ニ武装セル十人宛ノ農夫ヲ置クコトヲ許セルヲ以テ総数ハ予備兵ヲ除キ七十余万ニ達スヘク其ノ中三十万人ヲ以テ全国ヲ平定シ得ヘシ国際關係ハ全世界ニ対シ平和ナリ但シ或ル一大国民力墨国ニ対スル親交ヲ撤去シタル事実アルモ之墨国ノ罪ニアラス

三一六 十二月十六日 牧野外務大臣ヨリ
在墨国安達公使宛

軍艦出雲「メキシコ」着予定日時ノ件

第六九号

出雲「マンザニヨ」著ハ二十二日(月曜)午後ナル旨同艦長ヨリ無線電信アリ

三一七 十二月十六日 牧野外務大臣ヨリ
在ホノルル永滝総領事宛(電報)

軍艦出雲ノ水兵上陸ニ関スル措置振ニ付塩原

書記官ニ訓令ノ件

第三六号

至急

塩原へ左記ノ通転電セラレ無線応答ノ有無返電アリタシ

Tampico ニ於ケル日本人全部ハ安全ニ汽船内ニ避難シ居ル旨報告アリタル趣十二月十五日附公文ヲ以テ英国外務省ヨリ通知アリタリ就テハ右ニ対シ本使ハ帝国政府ノ名ニ於テ謝意ヲ申入レ可然ト思考ス返電アリタシ

第一号

「マンザニヨ」ニハ田辺書記官出張シ出雲ノ同地着ヲ待受ケ墨国ノ情况ヲ貴官及出雲艦長ニ詳細報告シ且安達公使ノ意見ヲモ伝達スル筈ニ付其ノ上ニテ水兵上陸ノ件ヲ艦長ト協議シ請訓セラルヘシ若シ田辺ノ報告ノミニテ決定シ兼ヌル場合ニハ出雲ヨリ森少佐又ハ他ノ将校ヲ墨国首府ニ出張セシメ直接安達公使ト同伴ヲ協議セシムル様海軍大臣ヨリ出雲艦長ニ訓電ヲ発セラレタルニ付貴官ハ其ノ際右ト同行シ首府ニ赴キ協議ニ与カラルヘシ

三一八 十二月十六日 在英国外務大臣ヨリ
在墨日人保護ノ為英国外務大臣宛(電報)

在墨日人保護ノ為英国外務大臣宛(電報)

英国外務大臣ヨリ通報ノ件

第一九〇号

往電第一八一号ニ関シ英国外務省ハ墨西哥諸港ニ於テ必要ニ応シ日本国臣民ニ臨時保護ヲ与フル様墨西哥沿海ニ於ケル英国外務大臣ニ訓令シタル趣並ニ同様ノ訓令ヲ在墨西哥国英領事館ニ發スル様在墨西哥国英領事館ニ訓令済ノ趣尚墨西哥近海英艦隊司令官發十二月十三日附電報中ニ

註 右ニ対シ十二月十七日第一九九号電報ヲ以テ牧野外務大臣

ヨリ在英井上大使ニ対シ「帝国政府ノ名ニ於テ英政府ノ好意ニ対スル深厚ナル謝意ヲ同国政府ヘ申入レラレタシ」ト訓令セリ